

和仏法律学校講義録

著者	金井 延, 栗津 ？亮, 有賀 長文, 富谷 ？太郎, 鈴木 宗言, 加藤 正治
出版者	和佛法律學校
巻	2-9
ページ	1-47
発行年	1899-06-10
URL	http://hdl.handle.net/10114/4675

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4

海峽殖民地法律

正誤

栗津講師保險一八頁四行第一ヲ
第一節ニ
ト改ム

海峽殖民地法律

第九號

月 頁 回 目 次

經 濟 學 (自五一頁) 法學博士 金 井 延	商 法 保 險 (自二四頁) 法學士 栗津 清亮	財 政 學 (自四九頁) 法學士 有賀 長文	手 形 法 (自八五頁) 法學博士 富谷 銈太郎	破 產 法 (自一八〇頁) 法學士 鈴木 宗言	海 商 法 (自八七頁) 法學士 加藤 正治
-------------------------	--------------------------	------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------

和佛經濟學講義

第九號

每月貳回

目

次

經濟學	（自五一頁至五八頁）	法學博士金井延
商法保險	（自二四頁至二九頁）	法學士栗津清亮
財政學	（自〇九頁至一四頁）	法學士有賀長文
手形法	（自五八頁至五九頁）	法學博士富谷銈太郎
破產法	（自一七三頁至一八〇頁）	法學士鈴木宗言
海商法	（自七八〇頁至七八七頁）	法學士加藤正治

講義録合本定價表(二)

今回二十九年度講義録合本出來致候ニ付キ校友生徒及ヒ校外生ニ限り特價ヲ以テ販賣ス

科目及ヒ講述者	頁數	正 價	特 價	郵 税
陸士 中村 進年講述 國 際 公 法	九一八頁	壹圓八拾參錢	壹圓四拾六錢	拾四錢
陸士 中村 進年講述 本下 橋田河津法學士講述 行政法 新論	一三四頁	參拾五錢	貳拾八錢	四錢
法學士 橋田 萬壽講述 行政法 各 論	一六五頁	貳拾五錢	貳拾錢	四錢
法學士 橋田 萬壽講述 刑法 各 論	七四五頁	壹圓四拾九錢	壹圓拾八錢	拾錢
法學士 橋田 萬壽講述 法學 通 論	四六一頁	九拾貳錢	七拾參錢	八錢
法學士 古賀康造講述 刑法 新 論	八一九頁	壹圓六拾錢	壹圓參拾錢	拾貳錢
仁井田河津法學士講述 民事訴訟法(第二編以下)	六五〇頁	壹圓六錢	八拾五錢	拾錢

爾カク盛ナルニ非ス歐洲ニ於テモ亦之ト同シキモノアリ歐洲ニ於テ近年物價ノ大ニ下落シタル原因ヲ論スル者二派ニ別ル即チ其一ハ金ノ騰貴ヲ以テ之カ原因ト爲ス者ニシテ他ノ一ハ生産法ノ發達即チ機械ノ説明交通ノ便利増加シタルノ事實等ニ在リトスル者ナリ今其詳細ニ至リテハ煩雜ニ涉ルヲ以テ省略スヘルト雖モ眞理ハ蓋シ兩論者ノ説ヲ折衷シタル議論ナルヘシ之ヲ要スルニ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニシテ物價ノ下落ハ貨幣ノ騰貴ナレトモ是レ單ニ事實上ノ關係ヲ表明シタルニ過キス貨幣ト物價トノ間ニハ必スシモ常ニ原因結果ノ關係アルニ非ス

第四章 財産制度

財産制度ヲ經濟學中ニ講スルハ一見頗ル奇異ナルカ如シト雖モ實際決シテ然ラス財産法カ如何ニ規定セラレ一個人ノ私有財産カ認メラルハ否ヤ若シ認メラルトセハ如何ナル程度マテ然ルヤニ由リ經濟上ノ現象ハ非常ニ影響ヲ被ルモノナルヲ以テ經濟學ヲ學ハント欲スル者ハ少クトモ財産制度ノ大體ハ之ヲ知ラサルヘカラサルナリ

講義録合本定價表(一)

今回二十九年度講義録合本出来政候ニ付々校友生徒及ハ校外生ニ限リ特價ヲ以テ販賣ス

科目及ヒ講述者	頁數	正 價	特 價	郵 税
法 學 博士 中村 進午 氏 講義 國 際 公 法	九一八頁	壹圓八拾參錢	壹圓四拾六錢	拾四錢
本 國 國 際 法 學 士 講義 行政 政治 新 論	二三四頁	參拾五錢	貳拾八錢	四 錢
法 學 博士 高橋 達 氏 講義 行政 政治 各 論	一六五頁	貳拾五錢	貳 拾 錢	四 錢
法 學 博士 高橋 達 氏 講義 刑法 各 論	七四五頁	壹圓四拾九錢	壹圓拾八錢	拾 錢
法 學 博士 萬藤 達 氏 講義 刑法 各 論	四六一頁	九 拾 貳 錢	七 拾 參 錢	八 錢
法 學 博士 萬藤 達 氏 講義 刑法 各 論	八一九頁	壹圓六拾錢	壹圓參拾錢	拾貳錢
法 學 博士 萬藤 達 氏 講義 民法 各 論	六五〇頁	壹圓六錢	八 拾 五 錢	拾 錢
法 學 博士 萬藤 達 氏 講義 民法 各 論	六五〇頁	壹圓六錢	八 拾 五 錢	拾 錢

爾カク盛ナルニ非ス歐洲ニ於テモ亦之ト同シキモノアリ歐洲ニ於テ近年物價ノ大ニ下落シタル原因ヲ論スル者二派ニ別ル即チ其一ハ金ノ騰貴ヲ以テ之カ原因ト爲ス者ニシテ他ノ一ハ生産法ノ發達即チ機械ノ説明交通ノ便利増加シタルノ事實等ニ在リトスル者ナリ今其詳細ニ至リテハ煩雜ニ涉ルヲ以テ省略スヘシト雖モ眞理ハ蓋シ兩論者ノ說ヲ折衷シタル議論ナルヘシ之ヲ要スルニ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニシテ物價ノ下落ハ貨幣ノ騰貴ナレトモ是レ單ニ事實上ノ關係ヲ表明シタルニ過キス貨幣ト物價トノ間ニハ必スシモ常ニ原因結果ノ關係アルニ非ス

第四章 財産制度

財産制度ヲ經濟學中ニ講スルハ一見頗ル奇異ナルカ如シト雖モ實際決シテ然ラス財産法カ如何ニ規定セラレ一個人ノ私有財産カ認メラルハ否ヤ若シ認メラルトセハ如何ナル程度マテ然ルヤニ由リ經濟上ノ現象ハ非常ニ影響ヲ被ルモノナルヲ以テ經濟學ヲ學ハント欲スル者ハ少クトモ財産制度ノ大體ハ之ヲ知ラサルヘカラサルナリ

090
1899
2-1-9

能 財産制度ノ事ヲ經濟學中ニ論スルハ一見甚タ奇異ナルカ如シト雖モ一
個人ノ私有財産カ法制上果シテ認めラレ居ルヤ否ヤ又認めラレ居ルトスル
モ果シテ如何ナル點ヲ認メラレ居ルヤハ社會經濟ニ重大ノ關係ヲ有スル
ヤ明カナリ若シ私有財産ニシテ全ク認めラレサラムカ分配上ノ議論ノ如キ
ハ初メヨリ生スルコトナシ故ニ經濟現象ヲ論スルニ當リテハ財産制度ノ主
義ハ如何ニ定メラレ居ルカヲ知ラサルヘカラス

太古ノ事ハ遙タリ得テ明知スヘカラス然レトモ人類并ニ人類ノ經濟ハ唯社會
ト稱スル人類ノ部落アルヲ假定シタル上ニテ茲ニ始メテ其ノ存在ヲ認ムヘキ
モノナルハ更ニ疑フヘカラス而シテ多數ノ人カ部落ヲ爲シ共同生活ヲ爲スニ
ハ必スヤ國家的ノ制度組織ナカルヘカラス是ヲ以テ國家ト國家ノ法制トハ實
ニ人類ト其ノ起源ヲ同クシテ頗ル古シ蓋シ國家的制度ノ組織アル以前ニ眞誠
ノ人類アルハ畢竟ルソー輩ノ想像タルニ止マリ絶對的自由ノ個人アリテ任
意ニ相協議シ茲ニ始メテ國家ヲ組織シタルモノナリト説クハ實ニ一個ノ妄想
タルニ過キサルナリ

註

太古ノ事ハ遙トレテ知ルヘカラスト雖モ當時財産制度ハ共有制度ナリ
シカ如シ而シテ人類及ヒ人類ノ經濟ハ必スヤ社會アルニ由リテ生ス國家及
ヒ國家ノ法制ハ實ニ人類ト其起源ヲ同クスルモノナリ但シ生物學者ノ所謂
人類ハ國家法制ノ組織以前ニ存在シタルヤモ測リ知ルヘカラスト雖モ是レ
經濟學ノ敢テ問フ所ニ非サルナリ而シテ此所ニ國家ト云フハ必スシモ今日
ノ國家組織ト同一ノ組織ヲ有スルモノタルヲ要セス縱令法三章ノミヲ以テ
統治セル時代ニ於ケル國家ニテモ無論可ナリ故ニルソー輩ノ主張スル如
ク人類相集リ契約ニ因リテ國家ヲ組織セリトノ説ハ全ク空想ニ出テタルモ
ノナリ何トナレハ契約ノ思想ノ如キハ國家組織ノ縱令不完全ナカラモ既ニ
成立シタル後ニ非サレハ生シ能ハサルモノナルヘケレハナリ

凡ソ人類ノ此世ニ生存スルニ必要ナル衣食住ノ關係ヲ規定シ人倫ノ大本ヲ保
維シ德行ヲ普及シ法律ヲ嚴守セシムルハ偏ニ之ヲ國家ノ制度組織ニ埃タサル
ヘカラス故ニ一個人若クハ組合會社等カ財貨ヲ生産シ消費スルノ能力ハ單ニ
其實際有スル所ノ腕力智力等ニ據ルニ非スシテ國家ノ制定レテ之ニ與ヘ終始

保維持續スル所ノ財産制度ニ據ルコト多シ

註 人類ノ生存ニ必要ナル衣食住ノ安全ヲ保チ道德ヲ維キ法制ヲ定メテ之ヲ實行スルニハ偏ニ國家アルヲ要ス其結果トシテ人類カ財貨ヲ生産シ交換シ又消費スルノ能力ハ腕力智力及ヒ道德心ノ備ハルノミニテハ未タ充分ナラス之ヲ國家ノ財産制度ニ俟タサルヘカラサルナリ何トナレハ如何ニ腕力、智力等充分ニシテ生産力ニ富メル者モ財産制度ニシテ備ハラサラムカ生産ノ結果ヲ自ラ收ムルコト能ハス之ヲ社會ノ共有ニ歸サ、ル可ラス隨テ遂ニ生産ノ爲メ勞働セサルニ至ルヘケレハナリ

財産法ノ規定如何ニ由リテ人々ノ經濟上ニ於ケル能力ハ大ニ異ナルアリ國家ノ法制ニ反シテ財貨ヲ生産シ使用スルノ場合ニ至リテハ經濟學上別ニ之ヲ論スルノ必要ヲ見ス

註 人々ノ經濟上ニ於ケル能力ハ國家ノ法制如何ニ由リテ定マル然ルニ世間往々法制ニ反スルノ行爲ナキニ非ス是レ即チ經濟上ノ問題トシテ論スルコトヲ要セサルモノナリ例ヘハ竊盜強盜等ニ因リテ衣食スル者アルモ之ヲ

經濟問題トシテ論スルヲ要セス然ルニ從來學者ノ間々之ヲ經濟行爲ト混淆シ生産事業ト同一視セルハ誤謬ノ甚タシキモノト謂ハサルヘカラス若シ之ヲ生産事業トシテ論スヘキモノナランニハ經濟學ハ社會ノ裏面ニ伏在スル他ノ隱微ノモノマテモ之ヲ論セサルヘカラサルニ至ラン斯クノ如クセハ經濟學ノ範圍ハ一層之ヲ擴張セサルヲ得サルニ至ルヘシ但是等ノ問題ヲ時ニ經濟學上ニ於テ談スルコトアルハ之ヲ經濟的行爲ト比較例證センカ爲メノミ主トシテ之ヲ論セムカ爲メニ非ス例ヘハ奴隸ハ現今ノ社會ニ於テ之ヲ認メサルニモ拘ハラス歷史上重要ノ關係ヲ有スルヲ以テ説明ノ便宜上之ヲ引用スルカ如シ

加之ナラス經濟學カ單ニ人類全體ト人類社會一般ノ富トノ關係ノミヲ論スルニ當リテハ或ハ時ニ財産制度ノ如何ヲ論セスシテ可ナルヤモ未タ知ルヘカラスト雖モ人類社會全體ノ富カ如何ニ一個人並ニ各社會階級ノ間ニ分配サルハヤノ問題ヲ論スルニ當リテハ是非トモ之ヲ不問ニ置クヲ得ス而シテ今日ノ經濟學ハ昔日ノ經濟學ト異ナリ重キヲ人類社會一般ノ富若クハ一國全體ノ富即

ヲ總額ニ置カスシテ寧ロ其社會階級ノ間若干ハ各個人ノ間ニ分配サル、分量ニ置ケハ財產制度ノ大體ハ之ヲ知ラサルヘカラス

財產法ニ所謂私有財產ナルモノハ社會ニ存在スル總テノ經濟上ノ財貨ニ對スル一個人ノ分前ナリ故ニ一定ノ時期ニ於ケル一個人ノ經濟的能力ハ其保有スル財產權ノ内容ト相等シキモノナリ所謂財產權ノ内容トハ何ソヤ曰ク經濟上ノ財貨即チ是ナリ而シテ一個人ノ財產權ナルモノハ國家ノ法令ニ據リテ其財貨上他人ニ對シテ有スル種々ノ權利ヲ綜合シタルモノニシテ此財產權ノ性質果シテ如何之ヲ取得シ讓與スルノ方法如何是レ皆經濟上ニ重大ナル影響ヲ與フヘケレハ財產制度ノ經濟現象ニ關スル實ニ大ナリト謂ハサルヘカラス勿論公法ノ如キモ實ニ重大ナル影響ヲ經濟現象ニ及ホスニ相違ナシト雖モ而モ其影響ノ大小強弱決シテ財產制度ノ影響ト同一ニ論スヘカラス財產制度ハ公法上ノ變遷、政治上ノ改革等ハ屢之アルニモ拘ハラス百年殆ト同一ニシテ容易ニ動カス經濟社會ニ直接ノ影響ヲ及ホスコト實ニ驚クヘキモノアリ先ツ經濟上ノ狀態ニ變化アリテ而シテ後始メテ財產制度ノ改正サル、コト往々之アリト雖

モ經濟上ノ現象ハ常ニ現在又ハ過去ノ財產制度ニ影響サル、ハ大ナルハ毫モ疑フヘカラサル事實ナリ

茲財產制度ノ主義如何ハ社會經濟上ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘキハ當然ノ事ナレトモ世人ノ之ヲ感知スルコト少ナキハ蓋シ此制度ニ慣ル、ノ久シキ却テ之ニ心付カス之ヲ悟ラサルニ因レルナランカ公法上ノ變遷政治上ノ改革等ハ如何ニ屬々之アルモ財產制度ハ之ト共ニ變革セラレタルコト甚タ少ナシ願フニ財產制度ハ歴史アリテ以來未タ曾テ甚シク變更シタルコトナシト云フモ決シテ經言ニアラサルヘシ

財產法ノ主義ハ之ヲ大別スレハ二アリ一ハ綜合主義ニシテ一ハ個人主義ナリ
(甲) 綜合主義

綜合主義ハ一ニ之ヲ國家主義ト唱ヘ社會主義トモ名ク此主義ニ基ク財產制度ノ下ニ立ツ一個人ハ重ナル貨物ニ對シ唯僅カニ一定時間ノ使用權ヲ有スルノミニシテ之ヲ自由ニ處分シ得ル所有權ハ單ニ公共ノ性質ヲ有スル國家若クハ其他ノ政治團體ニノミ屬ス

年	英國二十會社表			英國十七會社表			薩澤利喜太郎氏表			年	英國二十會社表			英國十七會社表			薩澤利喜太郎氏表		
齡	生	死	亡	生	死	亡	生	死	亡	齡	生	死	亡	生	死	亡	生	死	亡
10	10000	97	10000	676	1000	6	55	6586	149	63469	1375	564	15						
11	9903	0	99324	674	994	6	56	6437	146	62094	1436	549	15						
12	9903	25	98650	672	988	6	57	6291	144	60668	1497	534	15						
13	9878	21	97978	671	982	6	58	6147	154	59161	1561	519	16						
14	9857	63	97307	671	976	6	59	5993	146	57600	1627	503	16						
15	9794	52	96636	671	970	7	60	5847	176	55973	1698	487	16						
16	9742	19	95965	672	963	7	61	5671	174	54275	1770	471	17						
17	9723	35	95293	673	956	7	62	5497	187	52505	1844	454	17						
18	9688	57	94620	675	949	7	63	5310	197	50661	1917	437	18						
19	9631	77	93945	677	942	8	64	5113	199	48744	1990	419	18						
20	9554	58	93268	680	934	8	65	4914	210	46754	2061	401	19						
21	9496	94	92588	683	926	8	66	4704	210	44693	2138	382	20						
22	9432	58	91905	686	918	8	67	4494	216	42565	2191	362	21						
23	9374	74	91219	690	910	8	68	4278	232	40347	2246	341	22						
24	9300	70	90526	694	901	9	69	4046	241	38128	2291	319	23						
25	9230	51	89835	698	892	9	70	3805	212	35837	2327	296	23						
26	9179	67	89137	703	883	9	71	3593	218	33510	2351	273	23						
27	9112	64	88734	708	874	9	72	3375	256	31159	2362	250	22						
28	9048	73	87726	714	865	9	73	3119	253	28797	2358	228	21						
29	8975	71	87012	720	856	10	74	2866	295	26439	2339	207	20						
30	8904	75	86292	727	846	10	75	2571	236	24100	2303	187	19						
31	8829	68	85595	734	836	10	76	2335	248	21797	2249	168	18						
32	8761	77	84331	742	826	10	77	2087	222	19548	2179	150	17						
33	8684	72	84089	756	816	10	78	1865	240	17369	2092	133	16						
34	8612	77	83339	758	806	10	79	1625	214	15277	1987	117	15						
35	8535	73	82581	767	796	10	80	1411	186	13290	1866	102	14						
36	8462	78	81814	776	786	10	81	1225	188	11424	1730	88	13						
37	8384	81	81083	785	776	10	82	1037	156	9694	1582	75	12						
38	8303	86	80253	795	766	10	83	881	103	8112	1427	63	11						
39	8217	89	79458	805	756	10	84	718	131	6685	1208	52	10						
40	8128	82	78653	815	746	10	85	587	128	5417	1111	42	9						
41	8046	87	77838	826	736	11	86	459	100	4306	958	33	8						
42	7959	86	77012	839	725	11	87	359	79	3348	811	25	6						
43	7873	86	76173	857	714	11	88	280	73	2537	673	19	5						
44	7787	91	75316	881	703	11	89	207	48	1864	545	14	4						
45	7696	95	74435	909	692	11	90	159	42	1319	427	10	10						
46	7601	99	73526	944	681	12	91	117	33	892	322								
47	7502	105	72582	981	669	12	92	84	33	570	231								
48	7396	104	71601	1021	657	12	93	51	23	339	155								
49	7292	109	70580	1053	654	13	94	28	0	184	95								
50	7183	119	69517	1108	632	13	95	28	3	89	52								
51	7054	118	68409	1156	619	13	96	25	16	37	27								
52	6946	121	67253	1207	606	14	97	9	4	13	9								
53	6825	114	66046	1261	592	14	98	5	5	4	3								
54	6711	125	64785	1319	578	14	99			1	1								

註 綜合主義ニ基ク財産制度ノ下ニ於テハ重ナル貨物ハ國家又ハ其他ノ政治團體ニ屬シ一個人ハ唯一定期間之ヲ使用スルノ權利ノミヲ有シ之ヲ自由ニ處分シ買賣讓與スルノ權利ヲ有セス約言スレハ此主義ニ基ク財産制度ハ共有財産制ナリ此主義ノ財産制度ハ歴史アリテ以來稀ニ見ル所ナレトモ歴史以前即チ未開時代ニ在リテハ殆ト此主義ノ財産制度ノミ行ハレタリ今日ト雖モ土地ニ付テハ此主義ノ行ハルハ所ナキニ非スト雖モ一般ノ財貨ニ對シテハ行ハルハコト殆ト全ク之ナシ然ルニ今日モ尙ホ之ヲ主張スルモノ往々之アリ共產黨極端社會黨等ノ如キ即チ是ナリ

(乙)

個人主義
個人主義ニ據レハ人々ハ總テノ貨物ヲ永久ニ所有スルヲ得ヘク完全ナル財産權之ニ屬ス

註 文明ノ今日ニ於テハ人類其物ヲ財産視スルコトハ一般ニ禁セラレハ一般ニ財産權ノ主格トシテ認メラレ物格トシテ認メラルハコトナシト雖モ古代ニ在リテハ往々人其物ヲ物格視シタルコトアルハ予カ前既ニ述

式ト曰フ

保險ノ形式ヲ分チテ靜的動的ノ二種ト爲ス靜的形式トハ先ツ保險ノ組織ヲ設定スルニ必要ナルモノナリ即チ左ノ如シ

一 統計 將來ノ危險ヲ豫想スルニハ既往ノ統計ニ依ルノ外ナシ而シテ既往ノ統計トハ少クトモ十數年ノ經驗ヲ含蓄スルモノタラサルヘカラス火災統計海難統計死亡統計等ハ其重ナルモノニシテ保險形式中ノ最モ緊要ナルモノナリ

統計ノ中ニ就キテ最モ著シク發達シタルモノハ生命保險ニ於ケル死亡生存表ナリ而シテ死亡生存表ハ是ニ於テ吾人カ死亡ノ危險ニ瀕スルノ程度併ニ生存シ得ルノ傾キヲ知り得テ之ニ對スル正當ナル保險料ヲ算出シ得ル所ノ基礎ナリトス

(別表參照)

二 利率 保險者カ一定期間ニ對スル正當ナル保險料以外ニ將來ニ對スル部分ヲモ取立ツル場合アリ而シテ是ニハ相當ノ利子ヲ附シテ保管セサルヘカラス蓋シ保險契約ノ解除サル、場合ニ被保險者ニ返戻スル拂戻金ナルモノハ此保險料ノ部分ナリ而シテ相當ナル利子ハ其割合ヲ豫定シ置クモノニシテ之ヲ保險利率ト曰フ

三 純保險料 統計ニ依リテ危險ノ程度ヲ測定シ之ニ利率ノ計算ヲ施シ算出シタル保險料ヲ純保險料ト稱シ保險者カ其負擔スル所ノ危險ニ對スル報償トシテ保險契約者ヨリ取ルヘキモノナリ

四 附加保險料 前項ノ純保險料ハ單ニ危險ニ相當シタル金額ニシテ之ヲ被保險者ヨリ徵收スルトキハ保險者ハ過不及ナク保險金ヲ支拂ヒ得ルト云フニ過キス故ニ多數ノ人カ組合ヲ設立シ之カ運轉ノ費用ト勢力トヲ義捐シテ保險ヲ行フ場合ニ於テハ各人ノ出資ハ純保險料ヲ以テ足レリトス然レトモ之ニ相當ノ管理者ヲ置キ又ハ營業トシテ行フ場合ニハ純保險料以外ニ費用又ハ利益ニ充テヘキ金額ヲ保險契約者ヨリ徵收スルノ必要ヲ生ス之ヲ附加

保險料ト曰ヒ通常保險料ニ附加シテ保險契約ノ報酬トシテ收ムル所ノモノナリ

五 表定保險料 純保險料ト附加保險料トヲ合セタルモノニシテ被保險者ヨリ徵收スルモノナリ

以上ノ五者ハ保險ヲ組織スル所ノ靜的形式ナリ而シテ動的形式ハ左ノ如シ
一 危險鑑定者 保險契約ヲ締結スルニ際シテハ保險者ハ自己ノ負擔スヘキ危險ノ程度ヲ測定シ相當ナル報酬ヲ得ンカ爲メニ特別ナル技術家ノ力ヲ借ラサルヘカラス即チ生命保險ニ於テハ保險醫海上保險ニ於テハ船舶鑑定者火災保險ニ於テハ建築師等ノ機關ヲ備ヘサルヘカラスルカ如シ是レ保險ノ運用ニ必要ナル形式ニシテ進歩シタル國ニ於テハ法律ノ要求スル所ナリ

二 數理者 其職分ノ第一ハ責任準備金ヲ計算スルニ在リ責任準備金トハ契約法ノ上ニ於テハ保險者ノ權利タル保險料モ經濟上ヨリ考フレハ未タ被保險者ノ權利タル場合アリ之ヲ保護スルカ爲メニ公法上ノ規定ヲ以テ保險者ヲ強制スル所ノ財産ナリ

其職分ノ第二ハ危險準備金ヲ計算スルニ在リ既往ノ統計ハ必スシモ將來ノ實際ト相一致スヘキニ非ス或時ハ實際ノ損害額ヲ豫算ヨリ超過スルコトアリ或時ハ又之ニ反スルコトアリ其實際ノ損失高カ豫算ヨリ少ナキ場合ハ保險者ノ利スル場合ナリ然レトモ之ヲ利益トシテ消費シ去ルトキハ反對ノ場合即チ實損額ヲ豫算ノ損害ヨリ多クシテ保險者カ收入ヲ以テ支出ヲ償フコト能ハサル場合ニハ破産スルノ外ナカルヘシ故ニ之ニ備ヘンカ爲メニ利益ヲ正當ニ算出シテ損害ノ填補ニ充ツルノ計ナカルヘカラス此蓄積ヲ危險準備金ト稱シ之ヲ算出スルハ保險數理者以外ノ能クスル所ニ非ス

第四章 保險ノ種類

保險ノ種類ハ其目的物ノ性質ニ據リ三種ニ別ツコトヲ得第一物保險(第二人保險(第三債權保險)是ナリ而シテ物保險ノ主ナルモノハ火災保險運送保險海上保險農業保險等ニシテ人保險ノ主ナルモノハ生命保險疾病保險兵役保險怪我保險等ナリ又債權保險ノ主ナルモノハ抵當保險地代保險保證金保險等ノ如シ尙ホ賠償ノ方法ニ據リテ之ヲ區別スレハ(第一定額保險(第二不定額保險(第三混

合保險ト名クルコトヲ得而シテ定額保險トハ保險契約ヲ締結シテ一定ノ賠償額ヲ定メ置キ損害ノ實額ヲ計算スルコトナクシテ之ヲ賠償スル方法ヲ謂フ例ヘハ生命保險ノ如キ保險金額ヲ定メ置キ賠償額ハ必ラス是ト同一ナラサルヘカラサルカ如シ不定額保險トハ豫メ保險金額ヲ定メス或ハ之ヲ定ムト雖モ賠償ハ之ニ拘ハラズ損害ヲ標準トシテ行フ種類ヲ謂フ例ヘハ火災海上保險等ノ物保險ニ於テ多ク見ル所ノモノナリ又混合保險トハ損害ノ實額ハ想像セラレ得ルモ之ニ拘ハラズ一定額ノ賠償ヲ爲ス保險ノ種類ヲ謂フ怪我保險疾病保險等ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得修正商法ニ於テハ損害保險ト生命保險トアリ前者ハ不定額保險ニ當リ後者ハ定額保險ニ該當スルカ如シ而モ混合保險ヲ規定セサルカ故ニ吾人ヲシテ屢迷路ニ陷ラシムルノ虞アリ

次ニ契約ノ單純ナルト複雑ナルトニ據リ普通保險ト再保險ノ二ツニ區別スルコトヲ得前者ハ保險者ト保險者ニ非サル被保險者間ノ契約ニシテ後者ハ保險者ト保險者タル被保險者ノ間ニ結ハルノ所ノモノナリ

第二編 保險法論

第一章 保險法ノ種類

保險制度ニ關スル法律規定ヲ總括シテ保險法ト稱ス而シテ其規定カ主トシテ保險者ト保險契約者ノ間ニ存在スル權利關係ヲ定ムルモノナルト國家カ其安寧ノ爲メニ保險者ヲ拘束セントスル權力規定ナルトノ差異ニ據リ即チ其規定カ私法的ナルト公法的ナルトノ差異尙ホ之ヲ換言スレハ個々ノ保險契約ニ着眼スルト之レカ集合シタル保險事業其者ニ着眼スルトノ差異ニ據リテ保險法ヲ別チテ保險契約法保險會社法ノ二種ト爲スコトヲ得茲ニ國家自ラ保險事業ヲ經營シ人民ヲ強制シテ被保險者タラシムルノ方法ニ關スル規定アリ是レ亦保險公法ト曰フヘキモノナレトモ此ノ如キ法律ハ必スシモ世界各國ニ存在スルモノニ非ス之カ發達モ亦必然ノモノニ非サルヘキカ故ニ本講義ニ於テハ是ヲ除外シ保險法ト云ヘハ自由經營自由契約ノ範圍ニ於ケル此制度ノ規定ヲ論スルモノト知ルヘシ

第二章 保險法ノ起源

羅馬法ハ保險ノ方法ヲ知ラサルカ如シ勿論損害ヲ補償スルト云フ保險思想ノ一部分ハ賣買契約運送契約等ニ附隨シテ存在セリト雖モ之ヲ以テ直チニ保險契約ト謂フコトヲ得ス獨逸古代ノ法律中ニモ他人ノ損害ヲ賠償セントスル契約ハ存在セリ例ヘハ同業組合ニ於テ會員ノ疾病死亡火災盜難等ニ付キ其災害ヲ相互ニ補償シタルカ如キハ大ニ保險ノ方法ニ似タリト雖モ今日ノ所謂保險契約ナルモノニ非ス保險契約ハ先キニモ述タルカ如ク地中海沿岸ノ都府カ海上保險組合ヲ設立シ他國ノ被保險者ヲ得テ保險ノ實行ヲ試ミタルニ起因セリト謂フヘシ

獨逸ニ在テハ前世紀ノ半頃既ニ保險ニ關スル特別法ヲ制定セリ即チ一千七百三十一年ニ發布セラレタル「ハンブルグ」海上保險及ヒ分損條例并ニ一千七百四十四年ノ「アムステルダム」同條例ノ如シ普漏西ニ於テハ既ニ一千七百六十六年二月十八日同條例ヲ發布シタルシカ同九十四年普漏西國法ヲ制定シタル中ニ海上并ニ陸上保險ノ規定ヲ輯録セリ此法律ハ實ニ近來世界ノ保險法ノ基礎ヲ爲シタリト謂フモ不可ナシ獨逸ニ於テハ商事ニ關スル法律ヲ蒐メテ一大法典

ト爲サントスル計畫ヨリシテ保險法モ益完美シ普遍西ノ商法草案中ニハ保險ノ總則ヲ始メトシ火災保險、雹害保險、生命保險、海上陸上河川井ニ相互保險等ニ關スル規定燦然トシテ備レリ而シテ「バイエルン」「サクセン」等ヲ初メ各聯邦ニモ數多ノ特別法アリ

奧太利ニ於テハ其民法ノ中ニ保險契約ヲ以テ射替契約ノ一種トシ之ニ關シテ數條ノ規定アル外未タ保險私法ノ詳細ナル規定ヲ見ス而モ保險會社法ニ在リテハ一千八百六十九年ニ發布セラレ一千八百九十六年又新法ヲ以テ之ヲ改メタリ其規定ノ嚴密ニシテ干涉ノ激シキコト驚クニ堪ヘタリ

佛國ハ一千八百七十年ノ商法ニ海上保險ノ法律ヲ規定シ保險會社法ニ付テハ同六十八年ノ保險會社設立ニ關スル法律アリ又葡萄牙ニ在テハ一千八百三十三年ノ商法中ニ海上保險ノ規定ヲ設ケ又一般ノ保險ニ適用スヘキ法則ヲ定メタリ和蘭ハ一千八百三十八年ノ商法、伊太利ハ同八十二年ノ商法、西班牙ハ同八十五年ノ商法、匈牙利ハ同七十五年ノ商法、瑞典ハ同六十四年ノ海商法ニ於テ保險ニ關スル規定ヲ設ケタリ英米ノ二國ハ制典ナキ國柄ナルヲ以テ保險法ヲ一

括シタルモノナク片々ノ條例トシテ發布セラレタリ例ヘハ「ジョージ二世」ノ船舶保險條例ビクトリアノ海上保險契約法同王千八百七十一年ノ生命保險會社條例ノ如キハ英國保險法中ノ主要ナルモノニシテ又世界ノ保險法中ニ有名ナルモノナリ北米合衆國ニ在テハ各州ニ大同小異ノ保險取締法盛ニ制定セラレ例ヘハ一千八百四十九年「ユウヨーク」ノ保險會社條例一千八百五十一年ノ同州生命保險會社條例一千八百五十三年同州火災保險會社條例ノ如キハ其主ナルモノニシテ保險私法ニ付テハ主トシテ英國ノ判例ヲ繼承セリ又南米ニ於テハ一千八百五十年ノ「ブラジル」商法一千八百六十二年ノ「アルゼンチン」商法等ニ保險ニ關スル規定アリ

以上ハ保險法源ノ概要ニ過キス其詳細ノコトハ各自ニ研究セラル可シ本邦ニ於テハ修正商法ノ第三編第十章及ヒ第五編第五章ニ保險契約法ノ規定アリ而シテ保險會社法ハ未タ制定ニ至ラスト雖モ現行商法ノ保險營業ノ公行ニ關スル規定及ヒ本年ノ農商務省令第五號ノ如キハ保險會社法ノ一部ヲ表ハシタルモノト謂フヘシ而シテ完全ナル保險會社法ニ至テハ自今法典調査會ニ

於テ起草中ト聞ケルカ故ニ次ノ議會ニ提出セラレテ吾人カ之ニ接スルノ日モ亦違キニ非サルヘシ

第三章 保險契約法

第一 保險契約ノ定義

保險契約ヲ研究スルニ付テハ先ツ其定義ニ依リテ之カ概念ヲ得ルヲ便利ナリトス昔時ノ保險法學者ハ概シテ左ノ如キ定義ヲ與ヘ古キ教科書ニハ常ニ見ル所ナリ曰ク「保險契約ハ一人カ報酬ノ爲メニ他人ノ物ニ關スル危險ヲ引受ケ若シ其物カ損失スルトキハ之ニ付テ賠償ヲ爲ス契約ナリ」ト此定義ニ依レハ物ノ損害ヲ賠償スルト曰ヒ物ヲ以テ保險契約ノ基礎トセリ法律思想ノ發達スルニ隨ヒテ保險契約ノ目的トスル所ハ物ニ非スシテ人ト物トノ關係即チ利益ナルコトヲ發見スルニ至レリ次ヲ左ノ如キ定義行ハル、ニ及ヘリ曰ク「保險契約ハ一人カ報酬ノ爲メニ他人ノ利益ノ傷ケラル、場合ニ之カ賠償ヲ約スル契約ナリ」ト又英國ノ保險法學者「ビアン氏」ハ保險契約トハ當事者ノ一方カ報酬ヲ受ケテ他ノ一方ノ被ルコトアルヘキ損害ヲ賠償セント欲スル契約ナリト曰ヒ其

後ノ學者ハ大同小異ニ此定義ヲ示セリ而シテ近來最モ完全ニ近シト思ハル、モノハ獨逸ノ「エーレンベルヒ氏」ノ定義ナリ曰ク

保險契約トハ當事者ノ一方カ報酬ヲ受ル代リニ不確定ニシテ且經濟的損害ヲ惹起ス所ノ事故ノ發生ニ際シテ財産ヲ供出セント約スル所ノ獨立ノ合意ナリ

今是ヲ分拆シテ下ニ説明セント欲ス

第一當事者 契約ニ當事者ヲ要スルコトハ勿論ニシテ保險契約ノ當事者即チ相手ハ保險者ト被保險者ナリ保險者ハ損害填補ノ責ニ任スルモノニシテ被保險者ハ損害ニ罹ルコトアルヘキ利益ヲ所有シ保險料ヲ支拂ヒ填補ヲ受ル者ナリ是レ最モ普通ノ用例ニシテ英國ニ於テハ今猶ホ此ノ如ク定メラル然ルニ保險ノ用途益擴張セラレ目的ノ物件ニ付テ或ハ直接ニ或ハ間接ニ利益ヲ有スルモノ保險契約ニ關係スルニ至レリ即チ便宜上被保險者ノ側ニ於テ保險契約者保險金受取人等ノ名稱發生シ來レリ今日獨逸及ヒ我國ニ於テ保險者ノ相手ハ保險契約者ニシテ保險料ヲ支拂フ責ニ任シ之カ被保險者保險

金受取人等ヲ兼スルコトアリ又別人ナルコトアリ是等ハ後ニ詳論スルコトアルヘシ

第二報酬 報酬トハ保險者カ損害填補ノ責ニ任スルコトノ報償トシテ保險契約者ヨリ受クル所ノ金額ニシテ之ヲ保險料ト稱ス而シテ其金額ハ負擔スル所ノ危險ノ程度ニ相當スルモノニシテ之カ算出ノ方法ハ先キニ其一般ヲ述ヘタリ

保險料カ保險契約ニ於ケル報酬タルコトハ短期ノ契約例ヘハ火災海上等ノ保險ニ於テハ異存ナシト雖モ生命保險ニ於テハ保險料カ果シテ報酬ナルヤ否ヤヲ疑フモノナキニ非ス何トナレハ生命保險ハ貯蓄ニ類似シ保險金ハ保險料ノ蓄積シテ成立スルモノ、如キ事實アルヲ以テ生命保險料ハ例外ナリト主張スル者アレハナリ然レトモ此說固ヨリ探ルニ足ラス生命保險ニ於テモ保險料ハ危險擔保ノ報酬タルコト他ノ種類ノ保險ト同一ナリ此等ニ關シテモ亦後ニ詳論セント欲ス

第三事故 保險契約ハ不確定ニシテ且經濟的損害ヲ惹起ス所ノ出來事ヲ主眼

トス事故トハ即チ此不慮ノ危險ナリ危險ニハ絶體的ト關係のトアリ絶體的トハ治ク人類ノ能力ニ對シテ不知ナルノ謂ニシテ何人モ前知シ又豫想シ得サル所ノモノナリ地震ノ發生ノ如キハ今日仍ホ此部類ニ屬スヘキカ而シテ關係的危險トハ或人ハ假令之ヲ知レルモ保險契約ノ當事者力之ヲ知ラサル場合ヲ謂フ保險契約ニ於ケル事故ハ必スシモ絶對的危險ナルコトヲ要セス事故ニハ其發生夫レ自身カ不測ナルト發生ノ時期カ不定ナルトノ二種アリ火災保險ノ如キニ於テハ火災カ發生スル場合ト發生セサル場合トアリト雖モ生命保險ノ如キニ於テハ死亡ハ必ラス發生スレトモ其時期不定ナリ前ノ場合ニ於テハ保險者ノ義務ハ條件ニ屬シ後ノ場合ニ於テハ期限ニ繫ルノ區別アリ然レトモ此區別ハ單ニ言語ヲ弄シタルニ過キス或一定ノ期間ニ於テハ死亡モ火災モ發生夫レ自身カ不測ナリト謂ツテ可ナリ而カモ保險法學者ノ中ニハ不測ト不確定ト云フコトノ區別ヲ爲シテ論スル人頗ル多キカ故ニ參考ノ爲メニ述ルノミ

又事故ハ經濟的損害ヲ惹起スモノタルヲ要ス經濟的損害トハ金錢ニ見積リ

得ヘキ損害ノ謂ニシテ保險契約ニ依テ償ハル、所ノ損害ハ總テ財産上ノ損害ナリ但我修正商法ハ之ニ反對ノ主義ヲ以テ保險契約ニ依テ填補セラル、損害ハ經濟上ノ損害モアレハ又他ノ種類ノ損害モアリト信スルカ如ク規定セラル、ラ記應セラルヘシ他ノ種類ノ損害トハ人ノ生死ノ發生ニ伴フテ起ル損害ノ如キハ金錢ヲ以テ計ルヘカラスシテ愛情ノ存喪ナリト云フニ在ルカ如シ此ノ如キ主義ニ對シテハ上述ノ定義ハ適當セサルモノト知ルヘシ

第四財産ノ供出 事故ノ發生ニ際シテ保險者カ供出スヘキ財産ヲ保險金ト稱シ通常金錢ヲ以テ支拂フト雖モ其目的トスル所ハ元來利益ヲ保全スルニ在ルカ故ニ其目的ノ達セラル、ニ於テハ強チ金錢ヲ以テスルヲ要セス保險ニ附セラレタル物件ヲ原形ニ復セシムルコトヲ得レハ如何ナル方法ヲ以テスルモ可ナリ

第五獨立ノ合意 獨立ノ合意トハ他ノ契約ニ附隨シテ存在スルモノニ非スシテ單獨ニ成立シ得ル契約ヲ謂フナリ世ニ或ル性質ニ於テ保險契約ニ類似セルモノアリ即チ保證ノ如キ屬々保險ト混淆セラル、コトアリ例ヘハ保險附

時計保險附蝙蝠傘ナト、唱ヘテ恰モ保險者カ危險ノ負擔ニ任スルカ如キ體裁ヲ以テ保證ヲ行フコトアリ然レトモ此ノ如キ行為ハ單獨ニ存在スルモノニ非ス時計若クハ傘等ヲ販賣スル者カ其物品ニ自己ノ所信ヲ主張スル結果トシテ或ル一種ノ責ヲ負擔スルニ過キス故ニ其負擔スル所ハ大抵品質ニ原因スル損害ヲ指シ外圍ノ損害ニ付テ責ヲ負フモノニ非ス即チ賣買ノ契約ニ附隨シテ發生スル所ノモノナリ又口入業者カ傭人ノ身元引受ヲ爲スモ身元引受保險ニ似タリト雖モ前者ハ雇傭契約ニ附隨シテ行ハレ後者ハ雇主ト無關係ニ成立スルノ相違アリ故ニ口入業ハ保險業ニ非ス其他運送人カ貨物運送中其損害ヲ負擔スルノ約ヲ結フカ如キハ運送契約ト曰ヘル主タル契約ニ附隨シテ行ハル、ニ過キス保險契約モ歷史的ニ其起源ニ遡ラハ此ノ如キ現象ニ基因セリト謂フヘシト雖モ現今ニ在リテハ保險契約ハ別ニ一個獨立シタル契約ノ種類ヲ形成シ貨物ノ製造者又ハ賣主ニ非スシテ損害ノ補償ヲ爲シ口入業者ニ非スシテ身元引受金ヲ拂ヒ運送人ニ非スシテ運送中ノ危險ヲ負擔スルノ專業者發生シ來リ是等ノ者カ約スル所ノ契約ヲ保險契約ト謂

フナリ

以上ヲ以テ保險契約ニ對スル「エーレンベルヒ」氏ノ定義ヲ略シ説明シ終レリ而シテ之レカ果シテ保險契約ヲ解説シテ餘蘊ナキヤト云フニ予ハ尙ホ少シク足ラサルヤヲ疑フナリ即チ氏ハ危險發生ノ期間ノコトヲ曰ハス又契約ノ集合ヲ考慮セサルナリ

當事者ノ一方カ損害ヲ受ケテ他ノ一方ニ填補セシメ得ル期間ハ豫定セラレタルモノナラサルヘカラス之ヲ保險期間ト稱シ其間ニ發生シタル事故ニ因リテノミ生スル損害ヲ填補スルモノナリ

契約ノ集合トハ同一ノ保險者カ數多ノ被保險者ヲ相手トシテ同時ニ多クノ契約ヲ締結スル場合ヲノミ想像スルノ謂ニシテ是レ保險ノ本質上自明ノ事ナレトモ先ツ保險契約ヲ定義スルニハ之ヲ表示スルヲ必要トス然ラサレハ保險契約ト他ノ單純ナル射倖契約又ハ恩惠契約ト混淆セラル、ノ恐レアリ例ヘハ甲カ報酬ヲ拂ヒ乙カ其被ルコトアルヘキ損害ヲ填補ヲ約シ且此契約ハ唯其兩人間ニノミ存在スル場合ノ如キハ全ク損害ヲ細分スルト云フ保險ノ本質ヲ缺キ乙

累進税ノ恐ル可キハ獨リ腐敗セル共和國ノミナラス奸雄君主國ニ於テモ亦同一ナリ蓋シ奸惡其志ヲ逞セウスルノ初ニ當リテハ必ス少數ノ富豪者ニ反對シテ多數ノ貧者ノ權利ヲ主張セ巧ニ其歡心ヲ迎ヘ遂ニ之ヲ籠絡シテ其目的ヲ達スルニ至レハナリ

今各國ニ於ケル實例ヲ舉示センニ伊太利ニ於テ十五世紀頃ニ行ハレタル税法ニ依レハ千四百四十二年「メダナ」所得稅率法第一級ヲ「フロリン」乃至五十「フロリン」トシ之ニ四分ヲ課シ漸次累進シテ千五百フロリン以上ハ三割三分ノ一トシ千四百四十六年頃ニ至リテハ第一級ニハ八分ヲ課シ最高五割ヲ課セリ又佛國革命時代ニ於テハ一人毎ニ年々千「フラン」以上ノ收入アル者ニハ皆所得稅ヲ課シ千「フラン」乃至一萬「フラン」ハ一割一萬「フラン」以上ノ收入アル者ハ強制的ニ國債ニ應ス可キ義務アリトセリ佛國經濟雜誌ノ報スル所ニ依レハ瑞典ノ或州ニ於テ千八百八十六年ニ定メタル稅率ニ依レハ一千「フラン」毎ニ二百二十「フラン」徴收シ漸次累進シテ全所得ノ四分ノ一ヲ徴收ストセリ又同國ノ或州ニ於テハ六割ヲ課スルモノアリト云ヘリ是等ハ畢竟國民多數ノ決議ヲ以テ其稅

率ヲ定メタルカ故ニシテ實際國民多數ノ欲望ニ反對スヘキ貴族ノ思想ノ強盛ナルニアラサレハ勳モスレハ富豪者ヲ凌虐スルノ弊ヲ生スルニ至ルヘシ以上述ヘタル所ヲ約言スレハ吾人ハ此ニ顯著ナル事實ヲ發見スルヲ得ヘシ即チ國家未熟ノ時ニ於テハ事皆富豪者ノ利益ノ爲メニ定メラレ國家既ニ衰運ニ傾キタル時ニ於テハ事皆貧民ノ利益ノ爲メニ定メラル此兩時間ノ中間即チ國家正ニ隆盛ナル時期ニ於テハ真正ナル正當ノ課稅ヲ見ルコトヲ得ル是ナリ累進法ノ危險ヲ避ケ其根本ナル原則ノ眞理ヲ確定センカ爲ニ種々ノ方策ヲ案出セシ者アリト雖モ就中左ニ掲クル所ノ二方策ヲ以テ其最モ著シキモノトス第一ハ累進法ニ代フルニ累退法ヲ以テスルモノニシテ即チ一ノ限界ヲ極メテ深ク定メ是ヨリ以下ハ稅率ヲ漸々低下セシメ而モ猶租稅負擔者ノ全体ハ依然トシテ同一ノ稅率ノ下ニ立ツカ如クスルニ在リ「ヒルヘリ」シユ氏ハ之ヲ反對ニ說明セリ即チ一定ノ限界ヲ極メテ高ク定メテ其限界以上ノ所得ニハ再ヒ稅率ヲ増加セス然レトモ其限界ヲ極メテ高クシテ其限界以上ノ財產又ハ收入ハ極メテ僅々ナルカ如クスヘシト云ヘリ此累退法ニ因リテ或ハ生スヘキ危險ハ貧

者ヲシテ過度ニ負擔セシムルニ在リ是猶ホ累進法ノ富者ヲシテ過度ニ負擔セシムルノ危險アルト同シ

千八百七十三年「サクソン」國第一院ニ於テ此累退法ニ基ケル所得稅ヲ議決シタリ此法律ハ總テノ大收入ハ同一ノ中間平均ノ稅率ヲ以テ課稅シ一定ノ額以下ハ其稅率ヲ漸次減退セシメタリ「フーリヒ」ノ憲法第十九條ニ曰ク「勞力ニ堪ヘサル者ノ僅少ナル財產及ヒ生活ニ必要ナル費用ヲ蔽フ爲ニ必要ナル所得ハ總テ免除セラルヘシ累進ハ收入ノ場合ニハ單位稅率ノ五割財產ノ場合ニハ其二倍ヨリ上ルヘカラスト」或財政學ニ關スル著書ノ記ス所ニ依レハ「グララス」ニ於ケル累進稅ハ共和的危險ヲ避ケンカ爲ニ財產稅ノ側ニ常ニ人頭稅ヲ設ケ二者ノ稅率ノ増加又ハ減少ヲ同一ノ比例ヲ以テセシメタリト云ヘリ然レトモ予ハ未タ其眞意ノ存スル所ヲ知ラサルナリ

第二ハ生存最低額ニ課稅セサルニ在リ是「ロツセル氏」等ノ唱フル所ニシテ氏ノ說ニ曰ク「生存最低額ヲ年々五百マルクトセハ之ニ家族ノ數ヲ乘シ例ヘハ家族ヲ五人トセハ二千五百マルク」ト爲リ此額ニハ課稅セス其殘所得ニハ均シク一

分ノ稅率ヲ以テ課稅ス上、クルザハ國ノ千七百四十二年ノ所得稅法ハ此方法ヲ採用セリ又獨逸ニ於テ所得稅ニ累進法ヲ採用スルノ必要ヲ生シタルハ「ナボレオン」第一世ノ時ニ在リテ當時國內大ニ疲弊シタリシカハ累進法ヲ採用スルノ已ムヲ得サルモノアリシナリ

第十五節 法序ノ原則

凡ソ善良ナル租稅ハ須ラク法律ヲ以テ其額及ヒ其支拂期限等ヲ確定セサルヘカラス是レ財産上頗ル必要トスル所ナリ而シテ各義務者ヲシテ豫メ己レノ負擔ス可キモノヲ知ラシメ之カ準備ヲ爲スノ道ヲ與フヘク不確定ナル租稅ハ重稅ヨリモ尙ホ不良ノ結果ヲ生スルモノニシテ即チ些少ノ不確定アルモ重稅ヨリハ尙ホ一層大ナル困難ヲ人民ニ感セシム語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ不意ニ一割ノ稅ヲ課セラル、ハ規則立チテ二割ノ稅ヲ課セラル、ヨリ經濟上害アリトス收稅官吏ニシテ此點ニ十分ノ注意ヲ爲サ、ルトキハ殊ニ租稅ノ過重ナル場合ニハ直ニ官民ノ間ニ敵視ノ念ヲ生シ種々ノ惡結果ヲ來スヘシ今日一般人民ノ收稅官吏ヲ視ルコト猶ホ惡敵ヲ視ルカ如ク之ヲ嫌忌スル故ニ習慣ヲ去ラント

スルニハ一ニ此法定ノ秩序ヲ保ツノ外ナカルヘキナリ

「ストレリン」氏ハ變動の租稅ニ關シテ注意シテ曰ク「若シ實際支拂フヘキモノニシテ豫期シタルモノヨリ少キトキハ臣民ノ悦ヤ大ナリ然レトモ多クハ之ヲ再ヒ良途ニ使用スルコトナク浪費スルヲ通例トス然ルニ若シ實際ノ支拂豫期シタルモノヨリモ多キトキハ爲ニ直ニ家計ニ困難ヲ來スヘシト」

收稅官吏ヲシテ其動作ヲ自由ナラシムル所ニ於テハ總テ租稅ニ關スル法令ハ成ル可ク一般的ニ規定セラレ又成ル可ク嚴重ニ施行セラルルノミナラス下級收稅吏ノ俸給ハ其徵收セル額ニ因リテ増減スルカ如キ方法ヲ設クルカ故ニ一般ニ租稅ニ付テ定メラレタル所ヲ利用シ多クノ徵收ヲ爲シ爲ニ人民ノ惡望ヲ招クニ至ルヘシ

法序ノ原則ヲ蔑如シ時々ノ專斷ヲ以テ重稅ヲ徵收シタル國家アリ或ハ時々ノ稅率ヲ秘密ニシテ之ヲ明示セサル國家アリ就中稅率ヲ秘シテ明示セサル方畧ハ國民ノ輿論ニ因リテ制限セラレサル所ノ君主國ニ於テ暗々裡ニ徵稅ヲ恣ニセンカ爲ニ好シテ實行セル所ノモノトス然レトモ爲ニ一般ノ信用ヲ害スルハ

言フヲ待タス何トナレハ世人ハ互ニ納ムヘキ税額ヲ知ラサルヲ以テ他人ノ收入ヲ知ルニ由ナケレハナリ

第十六節 租税政略

往昔國家ト云フ實想未タ定マラサルニ當テハ各君主ハ其領地ニ對シ領主ノ地位ニ立チ而シテ所謂領主經濟トモ稱スヘキモノヲ施セリ而シテ此ノ時ニ於テハ今日所謂國庫ナルモノ、獨立ニ存在スルコトナクシテ今日所謂國庫ナルモノハ其領主ノ私家經濟ノ内ニ存在セ唯其一大要部タルニ過キサリナリ次ニ下リテ君權ノ時代ニ及ンテ君主ノ收入上消費者即チ臣民ノ盛否如何ヲ顧ミルノ必要ヲ生セリ換言スレハ消費若成否ニ關シ利害ヲ感スルニ至レリ然レトモ生産者トハ多クハ敵對即チ競爭者ノ地位ニ立テリ換言スレハ其利害ニ付キ常ニ相衝突セリ

始メテ此ノ二者ノ關係即チ君主ノ收入ト臣民ノ體裁トノ間ニ完全ナル關係ヲ生セシメタルハ蓋シ租税ノ起リシ時ニ在リ租税ノ制度起リテ始メテ國家ノ公益ト臣民ノ私益ト相互ニ關聯併行スルモノト爲レリ此ニ一段ノ進歩ヲ見タル

ヤ亦明白ナリ

現今尙ホ野蠻國ニ於テハ租税ナルモノナレ「ボルニヤ」國ニ租税ナシ而シテ其酋長ハ如何ニシテ其財政ノ要ヲ充タスヤト問ヘハ最モ恐ルヘキ君權ニ屬スル財源二個アリ一ニ曰ク人獵二ニ曰ク奴隸商賣蓋シ人ヲ獵スルハ君主ノ特權ニシテ之ヲ奴隸ニ賣ルモ亦君主ノ特權ナリト云フ野蠻時代租税無シ而シテ財政上ニ於ケル此進歩ハ實ニ政制上ニ於ケル他ノ進歩即チ私權の家長制ヨリ進ンテ國權の警察制又進ンテ立憲の國家制ニ至ルニ恰モ兩々相對應スルモノト謂フヘキナリ現今國民力國家ニ對シテ爲ス所ノ要求而シテ國家力其レカ爲ニ亦國民ニ對シテ爲ス所ノ要求ト相互ニ關係セルモノナリ

租税ニ依リテ以テ國家カ營ム所ノ事業ノ價如何ハ暫ラク措テ論セサルモ尙モ度ヲ節シ宜ニ適シタル所ノ租税ハ之ヲ徵收スト云フコトノミニ付テ其結果ヲ見ルモ特ニ國民ハ一個ノ徵收手段ヨリハ遙ニ數多ノ發達ノ範圍ヲ有スルカ故ニ高等ナル經濟ニ進達スルコトヲ促カスノ鞭撻タルヲ知ルナリ或國ノ君主曾テ揚言セルコトアリ「若シ租税ナルモノ無カリセハ國家ハ國民ノ勢力ノ餘リ強

大ナルカ爲メ又其生活ノ餘リ驕奢ナルカ爲ニ困難スヘシ又曰ク「臣民ヲシテ柔順且精勵ナラシムル爲ニ須ラク重ク負擔セシムヘシ」ト「フオルボンチ氏」ユスチ氏等ノ財政原論ニモ稍之ニ類セル議論ヲ爲セリ又「マシカロホ氏」ノ租稅論ニ「現今通常ノ英國國民ハ以爲ラク若シ數回ノ戰爭ナク又千八百十五年前百年ノ租稅ナカリセハ英國國民ハ今日ヨリハ遙カニ富強ナルヘシ」ト然レトモ是レ大ナル誤ナリト痛論セリ又曰ク「租稅ノ義務者ニ及ホス影響ハ猶ホ恰モ家族増加ノ家長ニ及ホス影響ノ如シ管ニ自己ノ地位ヲ高ムルノ希望ノ爲ニ勤勉節儉ノ風ヲ養成スルニ止マラス若シ然カセサレハ其位地ヲ落スヘシト云フ恐懼ニ促カサルルモノナリ租稅過重ニシテ收入ヲ以テ負擔スル能ハサルモノハ希望ナキ恐懼ナリ若シ英國國民ニシテ先キニ彼等ノ重キ租稅ヲ負擔セシコトナカリセハ決シテ今日ノ富ヲ見ルコト能ハサルヘシ云々」

此等ノ說ヲ唯一國ニ固執スルトキハ極メテ危險ナリト雖モ是レ亦幾多ノ真理ヲ含メル見解ナリト謂フヘキナリ國家ノ財政ニ關スル施政ニシテ巧ミナレハ同一ノ租稅負擔ト雖モ之ヲ感スルコト輕ク國民ニシテ自由又教育アルニ於テ

ハ同一ノ租稅ト雖モ之ヲ負擔スルコト容易ナルヘシ尤モ此等ノコトハ皆適當ナル且節度ナル租稅ニ付テ之ヲ謂フヘクシテ不適不節ノ租稅ニ付テ謂フヘキニアラス不當ノ租稅ハ國民ノ感情ヲ毀損シ不節ノ租稅ハ國民ノ精力ヲ萎靡スルコト勿論ナリ又實ニ下等階級ノ國ニ至リテハ其課稅セラハヘキ所ノ收入ノ部分既ニ僅少ナルカ爲ニ尙一層苦痛ヲ感シ勢力ヲ萎靡スルコト甚タシ尤モ人ノ通癖トシテ他人ノ負擔ハ輕ク自己ノモノハ重ク感スルモノニシテ是レ實ニ課稅者モ負擔者モ共ニ常ニ念頭ニ置クヘキ事ナリトス

次ニ又絶對的ニ租稅ノ高カラサル場合ニ於テモ他ノ競爭國ノ國民ノ負擔スルモノヨリ高キ場合アリ而シテ其レカ爲ニ貨物ノ價額ヲ他國ノ如ク廉ニシテ以テ世界ノ市場ニ於テ競争ニ打勝テ需要者ヲ見出スコト甚タ困難ナルコトハナルヲ以テ遂ニハ勢力者及ヒ資本ノ外國ヘ移出スルヲ促カスコトアリ最モ慎重ヘキコトナリトス例ヘハ彼ノ「ルーチヒ」邦及ヒ「ベルギー」邦ノ工業ノ隆盛ハク重ク負擔セル和蘭國ノ勢力者及ヒ資本力ノ移住ニ因ルモノナリト云フ是ニ由リテ之ヲ觀レハ文明ノ高マルニ隨ヒ租稅ノ増加スルハ自然ノ勢ナリト

雖モ租税ノ増加ト事業ノ發達ト相併行セシメント欲スルトキハ租税ノ度ヲ得其宜ニ適セサルヘカラス若シ然カセサルトキハ内國ノ事業ノ衰頽ヲ來タスヘキモノナリト云フコトハ唯タ一個ノ理論ニ止マラス實ニ實際其の例ニ乏シカラサルナリ

國家カ官有財産又ハ官有事業ヨリ收入ヲ得ル場合ニ於テハ國民ノ負擔ニ不平等ノ弊アルコトナシ何トナレハ國民一般ニ國家ノ作業ヨリ排除セラルハ以テ人民彼此ノ間ニ輕重アルコトナケレハナリ尤モ此ハ舊事業ヲ營ムノ場合ノミノコトニシテ若シ人民ヨリ新事業ヲ創奪スル場合ハ此ノ限ニアラス次ニ又領地經濟及ヒ君主特權經濟ノ繼續スル間ハ社會ノ反對勢力甚タ調和スルモノナリ諺ニ曰ク「國家ノ最好期ハ國家カ富ミ人民ノ富ミタルトキニ在リ」ト幾分ノ真理ヲ含ムモノト云フヘシ

第十七節 租税承諾

歐米多數ノ國ニ於テハ租税承認ハ實ニ高等ナル政治的自由ノ發達ト議院制度ノ發達トヲ結合スル所ノ繩索ナリ議院ハ實ニ專恣ナル課税ニ對シテ臣民ノ利

益ヲ防衛スルノ利器ナリ故ニ若シ國家ヲシテ其命令權ニ依リ直接ニ弱キ各個人ニ就テ租税以外ノモノヲ要求スルコトヲ得セシメハ議院ハ實ニ人民抑壓ノ假面タルヲ免レサルナリ君主專制政治ノ昔又東洋諸國ニ於テハ今尙ホ租税ノ名義ヲ付セス或ハ寄附金或ハ獻納金ト稱スルモノアリ或ハ之ヲ納メタルモノハ君主ニ謁見ノ榮ヲ得或ハ叙位ノ特典ヲ受タルコトアリ是レ實ニ一種ノ租税ナリ否常ニ不正確ナルカ爲ニ租税ヨリハ一層甚シキ害惡ヲ殘スモノナリ英國ノ「ベネボレンジ」ハ「リチャルド」第二世ノ代ニ始マリ「エドワード」第五世ハ富裕ナル寡婦ヨリ二十磅ヲ受ケテ汝ノ美姿ニ對シテ「ト」語ヲ以テ親シク接吻ノ榮ヲ與ヘタリ是ニ於テ寡婦ハ又廿磅ヲ獻セリト云フ「ドウヴエル」氏英國租税史第一篇第五百十六頁然リト雖モ凡ソ事ヲ共ニ爲サント欲スルモノハ共ニ事ヲ計ラサルヘカラス是レ實ニ政治上ノ德義ニシテ特ニ富裕者ハ常ニ服膺スヘキモノナリ昔時羅馬ニ於テ其負擔ノ重キモノハ隨テ其政治上ノ權限モ大ナリシナリ又千八百五十四年奧國ニ於テ勢力者ニ人的税ヲ課スルヤ專制主義ノ著ハ此税ノ結果トシテ政治的權力ヲ勢力者ニ迄擴張スヘキコトヲ主張スルモノ起ラサル

ヤヲ憂ヒタルモノアリトハ「ボツク」氏ノ國家論ニ在リ「ロベスピエール」氏ハ下等階級民ノ租稅自由ハ有害ナリト論セリ「アダム・スミス」氏ノ「富國策」ニ曰ク「凡ソ租稅ハ之ヲ支拂フ人ニ取リテハ奴隸ノ標ニアラシメテ自由ノ標ナリト蓋シ國家ハ租稅ヲ徵收セサルヘカラスト云フコト今日人類社會ノ制度ニ固有ノコトニシテ租稅ハ議院ノ承諾ヲ俟テ始メテ存スルモノニアラサレハ議院承諾ノコトタル其全體ニ於テハ決シテ重大ナルコトニアラス唯タ君主カ擅ニ人民ノ負擔ヲ増加スル場合ニ其防禦線タルニ過キサレハナリ

第十八節 租稅承諾ノ權利義務

租稅協賛ニ關スル政治上ノ見解ニシテ二個ノ極端說アリ其一ハ租稅協賛ノ權ヲシテ終ニハ有名無實ニ歸セシムルモノニシテ他ノ一ハ協賛體ノ權力ヲ殆ト無限ナラシムルト同時ニ國家ノ存立ヲ無視スルニ至ラシムルモノナリ蓋シ其ニ其中正ヲ失シタルモノナリ協賛權ハ勿論不協賛權即チ拒否ノ權ヲモ含ムモノナルヤ論理上必然ノ結果ナリ拒否スルノ權ナシト論スル者ノ如キハ即チ協賛權ヲシテ有名無實ニ歸セシムルモノナリ若シ此說ヲシテ行ハレレバ凡テ

臣民ノ財產ハ擅恣ナル政府ノ前ニハ風前ノ燈ト異ナラサルナリ「ボツク」氏ハ實ニ言ヘリ「君主ハ實ニ無限ノ租稅賦課ノ權力ヲ有スルノミナラス凡テノ財產ノ最上ノ所有者ナリト」

夫レ然リ此ノ如キ說ノ到底行ハルヘカラサルヤ明ナリト雖モ又一方ヨリ之ヲ論スルトキハ凡ソ權利ハ義務ニ對スルモノナリ權利アレハ義務アリ即チ此租稅協賛權モ亦之ニ應スル所ノ義務ニ對立スルモノナリ抑モ國家ナルモノハ間斷ナク永窮ノ存立ヲ期スルモノナレハ租稅ノ間斷ナク永續的ニ支拂ハルヘキコトヲ必要トスルハ恰モ人ハ其生活ノ爲ニ常ニ間斷ナク食物ヲ要スルカ如シ且夫レ今日ノ議院ノ租稅協賛權ハ之ヲ昔日ニ比スレハ其性質ノ大ニ異ナルモノナリ即チ今日ニ於テハ必要ナル租稅ヲ拒否スルハ國家ノ存立ヲ停止スルモノナリ否危急ノ時ニ於テハ實ニ國家ヲ放擲スルモノナリ若シ議院カ當時ノ政府ヲ信任セサルカ爲メ又ハ之ヲ嫌惡スルカ爲メニ例ヘハ國家ノ債權者ニ支拂フヘキ利子及ヒ國家ノ官吏ニ支給スヘキ俸給等ニ充ツヘキ租稅ヲ拒否スルニ於テハ是レ實ニ其權限内ニ於テ爲スコトナリト雖モ國家其物ヲ過ル所ノコト

タルヤ一ナリ千八百三十六年制定、ブルテンブルグ邦憲法ノ原則ニ基ケル租稅協賛權ト云フ句ヲ作リ此權限ノ無限ナルコトヲ主張セシハ實ニ「ビ」ヂル氏ナリ然ルニ「スタイン」氏ハ之ニ反對シテ曰ク「豫算ヲ拒否スルハ即チ國家ノ身體ヲ痼痺セシムルモノナリ政府行政國家ノ安寧國家ノ獨立國家ニ對スル債主ノ所有權及ヒ官吏ノ權利ヲ危タスルモノナリ而シテ凡テ此等ノ大權ヲ二三百ノ議員ヲ以テ組織セル一議院即チ錯誤、過失、黨派的精神ヲ以テ充滿セル一議院ノ權限内ニ一任スト云フコトハ實ニ驚タニ堪ヘタリ」ト

「ラバント」博士曰ク「抑モ豫算ハ法律ニ非サルナリ實ニ行政處分ニシテ立法ノ手續ヲ以テ確定セラル、モノナリ而シテ此ノ確定ハ法律ノ標準ニ隨ツテスヘキモノニシテ一政治體ノ專意的隨意ヲ以テ爲スヘキモノニアラスト」ヘーゲル博士モ亦「ラバント」氏ニ先チテ同一ノ主意ヲ述ヘタリ「ラバント」氏尙ホ其說ヲ續ケテ曰ク「政府ハ嘗ニ豫算ヲ以テ附與セラレタル權利ヲ以テ支出ヲ爲シ得ルノミナラス縱令豫算ニ載セサル支出ト雖モ切迫セル國家ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲ス權力ヲ有スルノミナラス實ニ其職分ヲ有セリ尤モ其支出ノ必要ナリト云フコト

ニ對シテハ政府其責任ヲ以テ之ニ當ラサルヘカラスト此ノ如ク論スルトキハ豫算ノ不成立ハ國家全體ヲ停止スルモノナリト云フコトハ憲法上ノ愚言ト云ハサルヘカラスト

又之ヲ英國ノ議院制度ニ觀ルニ始メ此租稅協賛ノ制ノ起ルヤ或ハ國王ノ治世ノ間或ハ其必要ヲ來タセシ原因ノ繼續スル間ヲ以テ期限トセシカ「スチュワルト」朝ノ末代ニ至リ國王大ニ之ヲ濫用セシヲ以テ終ニ千六百八十八年ノ革命後ハ國家毎年ノ經費ハ實ニ國會ノ協賛ヲ經タル後ニ非サレハ支出スルコトヲ得スト云フ原則ヲ立テシメタリ然ルニ又十八世紀ニ至リ國債ノ増加ノ爲メニ永久租稅ノ必要ヲ促カシ租稅ハ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ徵收スルコトヲ得サルコトハナレリ現今ニ於テハ英國歲入總體ノ中其六分ノ一ハ年々ノ協賛ヲ要スルモノニシテ其他ハ年々ノ協賛ヲ要セサルモノナリ千六百六十一年ノ回復後ハ海關稅ハ國王ノ在世間「アン」女王後ハ永久協賛ヲ與ヘラレタリ内國產物稅ノ重モナルモノハ「チャルス」二世即位第十二年法律第二十四號ヲ以テ永久ノモノト爲レリ家屋稅ハ「ワ」ヰリヤム「第三」世以後永久ト爲レリ千七百九十八年以

前ニハ租税及ヒ麥税ハ毎年協賛ヲ經タルモノニシテ其額ハ合セテ二百七十萬磅ニ當レリ千八百六十五年乃至六年頃ヨリシテ議院毎年ノ協賛ヲ要スルモノハ遂ニ所得税ト茶ノ海關税ト合計千萬磅乃至千百萬磅ノ收入ニ止マレリ而シテ收入總計ハ六千九百五十萬磅ナリシ

尙ホ此外英國議院ノ豫算議定ニ關スル特例ハ千六百七十一年後一ノ憲法上ノ習慣確定シ上院ハ豫算案ヲ其全體ニ可決スルカ否決スルカノ一アルノミニシテ修正權ヲ行フコトヲ得サルコト隨テ下院ハ豫算ニ付テ實權ヲ握ルト雖モ未タ最高主權者タラサルコト即チ是ナリ豫算起草提出ノ權ハ獨リ國王ニノミ屬スルヲ以テ議院ハ國王ヨリ要求シタル額ヨリ多クノ金額ヲ協賛スルコトヲ得ス換言スレハ豫算ヲ増加スルコトヲ得ス

佛國ニ於テモ博士ヲフテ氏ハ千八百二十七年書ヲ著シテ同國ニ於テモ豫算中動部ト不動部トノ部分トヲ正確ニ法律ヲ以テ區分スルノ要ヲ説ケリ然ルニ時ノ大藏大臣ハ全ク反對ノ意見ヲ抱ケリ以爲ラク今日迄佛國議院中ニハ一種ノ德義の強迫の慣習存立シテ豫算中必要ナル欠タヘカラサル部分ト共ニ左程必

要ナラサル部分ヲ合併セテ協賛スルモノナレハ此兩者ヲ區分スルハ利ナルカ如クニシテ不利ナリト「マルクス氏財政學第二篇第一一二節」スタイン博士ハ國家ノ豫算ト政府ノ豫算トヲ區別セリ「同氏財政學第一篇第三〇五節」ワグネル博士ハ亦凡テ爭議ノ外ニ在テ國是ヲ貫徹スルニ必要ナル歳出ハ之ヲ年々議院討論ノ問題ト爲サスセテ唯或ハ之ヲ増加シ或ハ其外ニ新費目ヲ創設スル場合ニ限リ之ヲ議院ノ討論ニ付シ之ヲ右第一種ノ歳出ニ使用シタル後殘リタル部分ノミヲ第二種ノ歳出ニ充ツルコトヲ爲スヘシト云フニ在リ同博士ハ又以爲ラク議院討論ノ部分ヲ此ノ如ク特定スルトキハ議院ノ審查監督ノ實尙ホ一層實際的ニ舉ルヘシト蓋シ當レリト云ハサルヲ得ス學者ノ諸説夫レ此ノ如シ今ヤ詔リテ實際ヲ顧ミルニ英國ノ如ク公然タル區分ヲ立ツル國ハ少ナシト雖モ而モ實際ニ於テハ類似的ノ區分ハ大抵ノ立憲國ニ於テ存立スルナリ「ハノーブル」聯邦ニ於テハ議院ノ自由討論ニ屬スルモノハ總テ八十五萬乃至九十萬「タール」即チ歳出總額ノ僅ニ百分ノ七ニ當ル而シテ尙ホ其内ヨリ道路新築費、山林改良費、地方建築費等ヲ除去スルトキハ殘リ僅ニ二十萬「タール」ニ「ミ（レー）チン」

氏「ハノーブル」豫算論

何レノ場合ニ於テモ特別ノ法律ヲ以テ規定スルコトナキ國々ニ於テハ一般ノ國法上ノ原則トシテ實際必要ナルモ唯法律上自由討議ニ屬スル部分ト法律上必要ナルモノトヲ判然區別シ隨テ租稅協賛ノ上ニ於テモ區別ヲ立ツルナリ是レ蓋シ議院モ政府モ共ニ國家ノ獨立安寧ヲ欲スルト云フ點ニ於テハ毫モ異ナルナシト云フ豫定推測ニ基ケルナリ若シ必要ナラサルモノヲ必要ナリトシテ提出スルヤ否ヤハ政治的德義ニ關スルコト、爲セルナリ尙ホ此ニ一言説明ヲ要スルモノアリ若シ要求額ト議院ノ協賛額トノ間ニ差異アル場合並ニ兩院ノ協賛額ニ差異アル場合ニ於テハ通常其低額ノ方ヲ採ルヲ原則トス何トナレハ高額ヲ主張スル者モ亦厭々中ニ其低額ニ付テ同意ヲ表セルモノナレハナリ凡ソ之ヲ濫用スルモ其害ヲ貽スコト少キ權力ハ濫用セラル、コトモ亦少シ之ニ反シテ何物ヲモ恐レタル權力ハ屢濫用セラル、モノナリ蓋シ立憲政治ニハ多少相互ノ讓歩ヲ要シ若シ實際上讓歩ヲ許ス餘地ナクハ立憲政治ハ到庭行ハル、コトヲ得ス故ニ知ルヘシ租稅協賛權力眞ニ政治上強盛ナル權力ト爲ルハ

新稅ヲ起シ又ハ稅率ヲ増ストキニ在ルヲ然リ而シテ何レノ國ト雖モ其經費ハ年々増加スル傾向頗ル強キ今日ニ於テハ此權力タル實際常ニ強盛ナリ是ニ於テカ又總テノ租稅ヲ新協賛ニ因リ始メテ増加スルモノト新協賛ヲ待タスシテ自カラ増加スルモノトノ二種ニ區別スルコト頗ル緊要ナリトス前者ノ適例ハ一定不動ノ地租ノ如ク後者ノ適例ハ總テノ消費稅ノ如キ是ナリ蓋シ消費稅ハ人口増加シ一國ノ經濟繁盛ナルニ至ラハ自ラ増加スレハナリ財產稅所得稅ノ如キ亦然リ又營業稅ノ如キモ自ラ増加スルモノ、一ナリ何トナレハ營業稅ハ富ノ増加スルト同時ニ増加スルモノナレハナリ鐵道稅ノ如キモ交通ノ増進スルニ隨ヒ自ラ増加スルカ故ニ亦此種ノ一ニ算フヘシ其他累進稅ハ皆此種ニ屬シ新聞雜誌ノ印紙稅ノ如キ家屋稅ノ如キ皆然リトス蓋シ租稅技術上ヨリ之ヲ論スルトキハ佛國革命ノ一大缺點ハ新稅ノ未タ十分深キ根底ヲ有セサルニ當リテ其舊稅ヲ全廢シタルコトナリトス

第十九節 租稅制度

租稅ノ制度其宜ニ適ストハ即チ課稅スヘキ稅源ヲ一モ寬假セス而モ又何レノ

税源ト雖モ過度ニ課税セサルニ在リ而シテ此事タル實ニ困難ニシテ十分發達シタル國民中ニ於テ經濟上ノ理論及ヒ統計ノ十分進歩スルモノナカルヘカラス財產上ノ技術モ亦進歩セサルヲ得ス尙之ニ加フルニ其有力ナル國民ノ部分ニ法律思想ノ十分發達セルコトヲ要スヘシ此等ノモノ相調ヒ相俟テ始メテ租税制度ノ完全ヲ期スヘキナリ

英國ニ於テハ其國民ノ收入ノ八分ノ五ハ勞力ニ對スル賃銀ニシテ其八分ノ三ハ土地及ヒ資本ノ收入ナリト云ヘリ故ニ同國ニ於ケル租税總額ノ八分ノ五ハ人民ノ負擔ニ歸シ八分ノ三ハ土地及ヒ資金ノ負擔ニ歸スルモノナリ而シテ此八分ノ三ハ再ヒ動産不動産ノ間ニ適度ニ分配セラレサルヲ得ス此ノ如ク分配其宜ヲ得ハ租税制度以テ完全ナルヘシ又二重ニ課税スヘカラストノ原則アリト雖モ此原則タル負擔者其人ヲ異ニスルトキハ常ニ破却セララルヘシ例ヘハ株式會社ノ總益金ニ課税スルト同時ニ各株主ニハ其利益配當ニ應ジテ課税スルカ如キ所得税トシテ課税スルヲ云フ是ナリ又消費組合數十名ノ者組合ヲ設ケ消費品ヲ買入ル、モノ倉庫組合又ハ材料組合ト稱スルモノアリ若シ之ニ課税ス

ルトキハ亦二重ニ課税スルモノナリ何トナレハ此等ノ組合ハ營利ヲ目的トスルモノニアラス然ルニ其消費品等ニハ既ニ課税セラレタルモノナレハナリ凡ソ太古ノ社會ニ於テハ事物頗ル單純ナルヲ以テ當時行ハレタル租税制度モ亦頗ル單純ニシテ殆ト財產又ハ收入ニ課税スルモノ、ミナリシカ社會稍複雑ニ赴クニ隨ヒ此單純ナル税制ノ代フルニ或ハ技術上ノ理由ニ由リ或ハ政治上ノ理由ニ基キ漸次諸種ノ重要ナル物件ニ課税シ尙ホ其不足ハ數多ノ小租税ヲ以テ之ヲ補充スルニ至レリ

千八百四十二年ニ英國ノ宰相「ピール」ハ課税品ノ表ヲ作ラシメタルニ其種類千二百種ニ上レリト云ヘリ又其租税ノ社會ノ進歩ニ隨ヒ増加スルコトニ付キ「エダンバルク」雜誌記者「ミス」氏之ヲ評シテ曰ク吾人ハ吾人ノ口ニ入ル所ノ物身體ヲ蔽フ所ノ物足ヲ以テ踏ム所ノ物其他如何ナル物ト雖モ之ヲ使用スル毎ニ租税ヲ負擔シ又視ル可ク聞ク可ク嗅ク可ク味フ可ク愉快ナル總テノ物品ヲ使用スル毎ニ租税ヲ負擔ス又溫度ニモ光線ニモ地上ニ在ル所ノ物品ニモ水中ニ在ル所ノ物品モ地下ニ在ル所ノ物品モ一トシテ租税ヲ負擔セ

此等諸種ノ物件ニ付キ租税ヲ徵收セントスルトキハ其徵收ノ煩勞タル大ニシテ其費用タル多カラサルヲ得ス何トナレハ殆ト各租税毎ニ別個ノ設立ヲ要スレハナリ尙ホ之ニ加フルニ全體ノ上ニ鑑明ナル監督ヲ爲スコトヲ得ス隨テ管ニ一個人ト一個人トノ間ニ不公平ヲ生スルノミナラス各市町村ノ間ニモ各府縣ノ間ニモ税制上幾多ノ不權衡ヲ生スルハ必然ノ結果ニシテ又爲メニ地方議會ニ權力ノ差等ヲ生シ或ハ各府縣ノ間ニ嫉妬猜忌及ヒ敵視ノ惡結果ヲ來レ遂ニ國家其物ヲ危カラシムルニ至ル是レ獨逸帝國ニ於テ屢其實例ヲ見タル所ナリ蓋シ該帝國各聯邦ノ税制一樣ナラサルヲ以テナリ又其不權衡ヲ生スル一例ヲ舉レハ「バーデン」ニ於テハ四十種以上ノ税制ヲ行ヒスタルケンブルクニ於テハ十二種ノ税制アリ是レ皆全體ノ上ニ監督ノ行ハレタル結果ナリ又該國ニ於テハ境關稅聯合ニ由リ境關稅ヲ一樣トシタルヲ以テ國內ノ租稅モ亦自ラ一樣ナラサルヘカラサルノ必要ヲ生シタリ

是ヲ以テ税制ヲ改良シ其歸一ヲ得ルコトハ社會ノ改進ト共ニ又國費ノ増加ト

其ニ益必要ト爲リ遂ニ之ヲ輕々看過スヘカラサルニ至リ何レノ國モ税制改良ヲ斷行セサルヘカラサリシナリ而シテ國家カ一タヒ税制ノ改正ヲ宣言スルヤ一八トレテ其負擔ノ減輕センコトヲ渴望セサル者アラサリキ蓋シ各人皆常ニ以爲ラク自己ノ負擔ハ他人ニ比シテ重シト是ヲ以テ幾多ノ改良ヲ實行シタル後其負擔ノ實際減輕シタル者サヘ尙ホ其不幸ヲ歎訴スルヲ常トス況ヤ其然ラサル者ニ於テラヤ是レ蓋シ新ニ課セラレタル租稅ハ其初ハ實際輕キ者モ舊來課セラレ既ニ慣習ト爲リタルモノヨリ重ク感スルハ通情ナリ近來税制改良中最モ著シキ例ハ千八百八十五年乃至六年ニ伊太利政府ノ著手シタル地租改正即チ地租歸一ノ舉ナリトス蓋シ當時北方伊太利ノ地稅ハ重キニ過キ之ニ反シテ南方ハ輕キニ過キタリ故ニ伊太利國ノ統一ト共ニ地租劃一ハ喧シキ一大問題ト爲リタルナリ當時ノ地租ヲ見ルニ北方伊太利「モデナ」地租ハ總收入ノ七割九分ニ當リ「シ、リ」ニ於テハ一割七分ニ過キヌ又南方ニ於テハ二百萬町以上ノ地ニシテ全ク課稅セラレサルモノアリ或ハ地主ノ提出シタル收穫見積高ニ依リテ課稅セルモノアリタリ

負擔ノ公平ナルコト及ヒ税法ノ歸一ナルコトハ固ヨリ必要ナリト雖モ又單純ニ過クル制度ハ進歩ニアラズシテ却テ退歩タルヲ免カレス理論派カ常ニ主張スル所ノ歸一租税制度ノ如キモ理論派ヨリ之ヲ論スレハ完全無缺ノ策ノ如キモ實ハ租税移轉ノ理ヲ知ラサルニ坐スル所ノ謬見ニアラサレハ人類ノ本質ヲ誤解セル空想家ノ見解ナリト評セサルヲ得ス千五百七十七年ノ頃「ボンゼット」云ヘル學者ハ既ニ此歸一租税ノ事ヲ說ケリ其策ニ依レハ各家ノ富及ヒ其財産ニ應ジテ課税スレハ可ナリト云ヘリ「シスモンデ」氏及ヒ「フォルボンチー」氏等ハ官有財産ノ收入及ヒ國境税ノ收入ハ別個ノモノナリ此二ノモノハ外ハ總テ國內ニ於テ相當ノ生計ヲ營メル者ニ對シ一錢ヲ賦課スレハ足レリト云ヒ又或學者ハ總テノ利得ニ五分乃至十分ノ税ヲ課スレハ可ナリ其利得者ノ生計地位等ハ敢テ顧ミルコトヲ要セスト云ヒ又總テノ土地ニ總收穫ト同率ノ租税ヲ課スヘシト論スル者アリ千七百四十三年「テケル」氏ハ家賃ヲ標準トシテ課シタル家屋税ヲ單一税ト爲スヘシト論セリ其他種々ノ單税說ヲ爲ス者アリ概シテ千七百年代ニ於テ此單税說最モ盛ナリキ蓋シ租税ノ益複雜ト爲リタル反動ト云ハ

サルヘカラス此學者中殊ニ「フォーベン」氏最モ有名ナリト又主農學派ノ者モ單税說ヲ唱ヘタリ即チ其學派ノ主義ノ結果トシテ總テノ租税ヲ廢シ之ニ代フルニ土地ノ純收穫ヲ標準トスル地租ヲ以テスヘシト云ヘリ「ケケ」氏最モ此說ヲ主唱セリ又「バーデン」國君カール「フリードリッヒ」氏ハ此說ヲ實行センコトヲ企テタルモ成ラサリキ佛國ノ「ミラボー」氏モ亦當時ノ學者ノ說ニ隨ヒテ二十級ニ分類セル所得税ヲ單一税ト爲サントシタリ英國ニ於テモ亦土地公債證書及ヒ紙幣等ヲ有スル者ニ單一ノ租税ヲ課スヘシト論スル者アリ「ミル」氏ハ之ヲ駁セリ曰ク「所有主ト云フモ其實所有權ハ既ニ他ニ移轉セルコト多シ故ニ所有主トシテ課税スルハ不可ナリ」ト又甚タシキニ至テハ麵麩一斤ニ付二錢ノ税ヲ課シテ之ヲ單一税ト爲スヘシト云フ者アリ就中地租及ヒ收入税ヲ單一税ト爲スヘシト謂フ者ヲ最モ有名ナリトス

既ニ十分發達シテ複雜ナル關係ヲ有スル國家ニ於テ單純ナル憲法ハ白紙同然ナラサレハ適以テ壓制ノ具ト爲ルニ過キサルカ如ク既ニ十分發達セル經濟體(即チ國民ニ單純ニ過クル税制ヲ施行スルトキハ其收入ニ不足ヲ告クルニアラ

ナレハ其壓抑ヲ感スルコト却テ強カルヘシ佛國ノ「オーデンフレッダ」氏曰ク單純ナル租税ハ不公平ナル租税ナリト實ニ格言ト謂フヘシ「ワグネル」氏ハ曰ク「單一税ハ一般ノ原則ヲ缺クモノナリ」ト蓋シ「單一税」ノ制ヲ採リテ尙ホ支ヘ得ル國ハ社會ノ未タ發達セス又政府ノ費用極メテ少ナク又ハ租税ノ外ニ官有財産ノ收入又ハ官業ノ收入多キ場合ニ限ルモノトス佛國ノ政治家「チール」氏曰ク「租税ハ猶ホ重荷ノコトシ之ヲ負擔スルニ堪ユルニハ身體ノ各部分ニ分配スルノ外ナシ」ト英國ノ政治家「ビーコンスフイルド」氏モ亦千八百七十年ニ於ケル演說ニ曰ク「租税ノ重キニ過クルヲ戒ムルコトヲ要スル國ニハ其稅源ヲ多クスルノ外ナシ」

第二十節 複稅附租稅ノ彈力性

既ニ前節ニ於テ論シタルカ如ク如何ナル租税ニテモ單獨ニテハ完全ナル能ハス是ヲ以テ租税制度全般ノ計畫ヲ立ラルニ當リテ當局者ノ宜シク自問自答スヘキ問題ハ各税ハ如何ナル程度マテ其相互ノ不完全ヲ補充スルモノナルカヲ知ルニ在リ蓋シ租税ハ相互ニ補充スルモノナレハナリ之ヲ詳言スレハ比例的ニ重ク賦課シタル一ノ租税ト之ニ對應スル他ノ租税ト相待ナラ以テ彼此其權

衡ヲ保ツニ在リ

稅法ハ宜シク十分確實ニシテ人々其租税ヲ納ムルモ尙ホ將來ノ計畫ヲ立ツルニ於テ困難ヲ感スルコトナカラシムヘシ又宜シク屈伸自在ニシテ即チ所謂彈力性ヲ具ヘ國民財産ノ分配上著シキ變動ノ生シタル場合ニハ租税モ亦之ニ應シテ増減ヲ得ヘクセサルヘカラス而シテ此等ノ目的ヲ達スヘキ最良ノ方策ハ重ナル租税ヲ適當ニ配合スルコト即チ直接ニ課スル所ノ財産稅收入稅生産力ニ課スル所ノ收益稅生産物ニ課スル所ノ諸種ノ間接稅及ヒ交通稅等ヲ適當ニ綜合連結スルニ在リ而シテ一タヒ此等ノ租税ヲ適當ニ結合シタル後縱令租稅總額ニ於テ昇降スルコトアルモ之カ爲ニ適當ナル比例ヲ再ヒ失ハサルヘク注意スヘキハ勿論ナリ「ボリ」氏ノ財政學ニ依ルニ千八百七十一年佛國ニ於テ必要ニ應シテ新ニ課シタル租税ノ五分ノ四ヲ間接稅トシ其五分ノ一ヲ直接稅ト爲レタリ間接稅ハ貧人ト富者トヲ論セス均シク賦課スル所ノモノニシテ直接稅ハ財産ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ負擔セサルモノナリ然ルニ佛國ニ於テ間接稅ト直接稅トヲ右ノ如キ割合ヲ以テ賦課シタルハ畢竟上流社會ノ者カ私

利ヲ計リタルニ因ルモノニシテ其當ヲ得サルモノナリトシテ氏ハ痛ク之ヲ非難セリ又「グラッドストーン」氏カ「セバストボール」ノ戰費ヲ償フ爲メニ課シタルトキハ全ク之ニ反對セリ

善良ナル租稅制度ニ離ルヘカラサル特質ハ屈伸力ノ多キコト是ナリ此事タル國家有事ノ日ニ於テ國費不足ノ虞ナキヲ得ルノミナラス國家無事ノ時ニ於テ歳入過剰ノ憂ヲ避ケシムルニ足レリ今日ニ於テモ尙ホ剩餘ノ當ニ生スルハ其危險決シテ少シトセス即チ(第一)國民ハ無用ノ租稅ヲ負擔セルモノニシテ(第二)又國庫ニ剩餘アルトキハ國費ヲ浪費的ニ支出スルノ傾向ヲ生シ易ク(第三)代議政體ノ國ニ於テハ政府ヲシテ敢テ國會ノ租稅協賛ヲ要セザラシムルモノナリ吾人ハ既ニ新稅ハ其初ニ當リテハ重ク感セラレハモノナルコトヲ論シタリ又新ニ起シタル租稅ニ因リテ國庫ニ入ル所ノ金額ヲ豫定スルハ頗ル困難ナリ是ヲ以テ吾人ノ最も希望スル所ノモノハ現存ノ租稅ニシテ其性質上國用ノ増減ニ應レテ之ニ他ノ性質ヲ附加スルコトヲ要セス又新機關ヲ設クルコトヲ要セス唯稅率ヲ高低スルノミヲ以テ國用ヲ充實シ得ルモノ即チ是ナリ他ノ事情ニ

シテ同一ナルトキハ租稅收納額ハ大國ニ於ケルヨリハ小國ニ於テ比較的ニ増減多キモノナリ例ヘハ「ハーゼル」ハ獨逸ノ最小邦ナリ該國ニ於テハ千八百七十四年ヨリ千八百七十七年マテノ間ニハ大ニ高下アリテ千八百七十四年ニハ百九十三万五千フランナリシカ翌年ニハ二百六十万六千フランニ達シ其翌年ニハ三百七十八万三千フラント爲リ翌年ハ減シテ二百万……「フラン」ト爲リタリ是レ其國事ニ付テノ感覺敏ナルニ由ル又人口ノ増殖ト共ニ開明ノ進歩ト共ニ富度ノ増進ト共ニ國家ノ財用モ亦増加スルヲ通則トス此事タル當ニ比較的ニ於テノミナラス絶對的ニ於テモ亦増加スルモノナリ故ニ國用ハ漸次昇ルヲ通例トス消費稅及ヒ交通稅ノ長所ハ此ノ如キ場合ニ其稅目及ヒ收納額ヲ増加スルコト是ナリ然レトモ國家ノ急迫ニ際シテハ即チ戰爭又ハ商業不景氣等ノ時ニ於テハ國家ニ要スル經費益増加スルニ反シテ此等ノ稅ハ減少ス是レ其短所ナリ又縱令此ノ如キ場合ニ其稅率ヲ増加スルモ收納額ヲ増加スルニ足ラス之ニ反シテ直接ニ生産力ニ課スル收益稅ハ較獨立ニシテ社會經濟ノ進歩ト共ニ著シク其收納額ヲ増加シ減少スルコトナシ地稅ニ至テハ殊ニ然リトス家屋稅

ハ新家屋ノ造築セラル、トキハ増加シ人的税ハ人口ノ増加ニ伴ヒテ増加シ營業税ハ營業ノ増加ニ隨ヒテ増加スルモノナリ故ニ當局者ハ須ラテ各租税ノ性質ヲ見テ之ヲ配合スヘキナリ
收益税ノ税率ヲ變更スルトキハ其資本ノ移轉ヲ促スノ結果ヲ生スルヲ以テ漫ニ之ヲ増加スルコトヲ得ス之ニ反シテ財産税及ヒ所得税ハ其税率ヲ増減スルモ害ナキノミナラス却テ利益アリトス何トナレハ平常無事ノ日ニ税率ヲ低下スルトキハ此等ノ税ニ伴フ所ノ一大弊害タル申告ノ訴訟又ハ財産ノ隱蔽等ハ自ラ其跡ヲ絶ワニ至ルヘク國家事有ルノ日ニ當リテ之カ税率ヲ増加スルモ不平ヲ惹起スカ如キコトナカルヘケレハナリ

今日税制ノ最モ其宜ヲ得タルハ英國ナリ是レ「ビール」及ヒ「クラフト」スト「イン」民ノ改革ニ因ルモノニシテ該國ニ於テハ麵粉又ハ肉ニ税ヲ課スルコトナシ是レ實民ノ一般ニ使用スルモノナレハナリ又海關税ハ頗ル低ク殆ト自由ナリトス又英國制度ノ全體上ヨリ之ヲ論スレハ英國ノ租税ハ大ニ増加力ヲ有レ國費ノ増加ニ隨ヒ新ニ租税ヲ課スルカ如キコトハ實際殆ト無用ナリトス財産及ヒ工業

ニ課シタル租税即チ地租家屋税所得税免許税又ハ印紙税等ヲ併セテ租税收入總額ノ二割四分ニ當リ奢侈税ハ其三割八分必需品ニ課スルモノ亦三割八分ニ當ル是レ千八百四十二年ノ頃即チ「ビール」ノ改革前ノ割合ナリシカ其改革後ハ變更レテ第一ノモノハ三割三分第二ノモノハ五割五分第三ノモノハ一割二分ト爲リ又千八百六十年ノ「エヂンボルト」雜誌ノ報スル所ニ依レハ英國ニテハ二千二百萬人ノ勞力者カ二億二千五百萬磅ノ收入ヲ有セ二千四百五十萬磅ノ租税ヲ負擔シタリ然ルニ上等及ヒ中等ノ兩級人民ハ七百五十萬人ニシテ其收入ハ三億二千萬磅ニシテ其租税負擔額ハ五千五百五十萬磅ナリキ故ニ勞力者ハ平均其收入ノ一割一分ニ當リ之ヲ一人ニ配當ツレハ二十二志ニシテ上級人ノ納ムル所ハ收入ノ一割六分平均六磅十四志四片ニ當ルト云ヘリ「セボン」氏曰ク「英國ノ勞力者ハ平常「ブランドー」「ウイスキー」及ヒ煙草等ヲ使用スルモ蓋シ之ヲ使用セサレハ大ニ其租税ヲ減シ其負擔ハ收入ノ一割ニ過キササルニ至ルヘシ「ト「ミル」氏ハ英國ノ地租ノ事ヲ論シテ曰ク「地租ハ當ニ之ヲ今日ノ如ク繼續セテ適當チルノミナラス國家ノ進歩ト共ニ富ノ價格ハ漸次増加セリ此價格ノ一部分ハ之

ヲ國家ニ徵收スルモ亦可ナリト
今英國最近ノ收入ヲ見ルニ其總額ハ八千九百八十万磅ニシテ其内重要ナル租
稅ヲ舉クレハ

相續稅	八三〇〇〇〇〇磅
海關稅	一九六三〇〇〇〇磅
內國產稅	二五六二〇〇〇〇磅
印紙稅	四六五〇〇〇〇磅
等ナリ	

第二十一節 國際租稅

國際間人ノ往來益繁ク貨物ノ出入愈多キニ隨ヒ內國ニ在ル外國人及ヒ外國ニ
在ル本國人ハ之ヲ如何ニ課稅シテ可ナルカノ問題ハ日ニ益其要ヲ加フルニ至
ルヤ知ルヘキナリ外國人ノ所有ニ屬スル內國ノ土地ニハ如何ニ課稅スヘキヤ
ノ問題ハ我國ニ於テ未タ實際ニ起ラサルモ條約改正ノ後ニハ必ス生スヘシ此
問題ニ付テハ學者ノ說二派ニ岐レタリ其一派ノ學者ノ說ニ依レハ外國人ハ全

ク租稅ヲ免カルヘシト云ヒ他ノ一派ノ說ハ內外國人ヲ別タス國內ニ在ル者ハ
總テ內國人ト同様ニ課稅セラルヘシト云ヘリ然レトモ此二說共ニ極端ニ走リ
タル疎論ニシテ未タ此問題ヲ論シ盡シタルモノト謂フヘカラス今此問題ヲ了
解セントセハ須ラク六個ノ場合ヲ區別スヘシ即チ左ノ如シ

第一 本國民ニシテ營ニ外國ニ居住スルノミナラス外國ニ其收入ノ源泉ヲ有
シ而シテ未タ本國公民ノ籍ヲ脱セサル者此種ノ者ニ本國政府ヨリ課稅スルハ
頗ル困難ニシテ其者カ時々本國ニ歸リ公民タルノ權利ヲ利用セントスルニ當
リ其利用ニ對シテ相當ノ負擔ヲ課スルハ毫モ妨ナシト雖モ其他ノ場合ニ於テ

ハ之ニ課稅スルコトヲ得ス

第二 本國民ニシテ外國ニ居住スルト雖モ內國ヨリ其收入ヲ得ル者例ヘハ地
主、株主又ハ公債證書ヲ有シ若クハ恩給ヲ受クルカ如シ此場合ニハ通常ノ義務
者ト同様ニ其本國ノ收益稅ヲ課スルヲ當然トス財產稅及ヒ所得稅ヲ課スヘキ
ヤ否ヤニ付テハ一定ノ答ヲ爲スコトヲ得ス若シ其者ノ財產又ハ所得ニシテ其
根本又ハ本源ヲ本國ニ有スルトキハ之ニ財產稅又ハ所得稅ヲ課スルモ不可ナ

シト雖モ是レ其場合ニ因ルモノトス千五百二十六年ノ頃ニ當リテハ主税主義頗ル盛ナリシカ故ニ「バイエルン」國政府ハ外國ニ出ル總テノ收入ニ三割三分三厘ノ重税ヲ課シタリ而シテ其理由トスル所ハ彼ノ主税主義ニ依リ金銀ノ外國ニ出ルハ國害ナリトスルニ在リキ千七百八十七年奧地利國王ハ一ノ勅令ヲ公布セリ曰ク「外國人ニシテ奧國ノ財産ヲ所有スル者ハ奧國ノ公務ニ服スル者又ハ毎年少クトモ六個月間奧國ニ居住スル者ノ外ハ通常外國人ノ負擔スル租税ノ二倍ヲ負擔スヘシ」ト是亦財産ノ外國ニ流出スルヲ防遏スルニ在リシヤ疑ヲ容レズ

第三 外國人ニシテ國內ニ居住セスト雖モ國內ヨリ其收入ヲ獲得スル所ノ者此者ハ本國民ト同様ニ收益税間接税及ヒ交通税ヲ課セラルヘキモノトス又所得税モ少クトモ其國內ヨリ獲得シタル所得ノ部分ニ對シテ之ヲ負擔セシムヘシ然ラサレハ本國內ニ於テ他ノ本國ノ競爭者ヨリ多利ナル地位ニ立ツモノト謂ハサルヘカラス

第四 外國人ニシテ內國ニ居住シ外國ヨリ其收入ヲ獲得シテ自ラ內國ノ間接

税ヲ負擔スル者此ノ如キ外國人ニ對シテハ他ノ租税ヲ課スルコトヲ要セサルノミナラス進テ內國ニ在ル所ノ總テノ諸設立ノ利用ヲ許スヲ通常トス

普國ノ外國人租税ニ關スル法律ハ千八百五十一年五月一日ニ公布シ千八百七十三年五月二十三日ニ至リテ少シク之ヲ修正シタリ是レ今日該國ノ國際租税ニ關スル法律ノ基礎ナリ此法律ニ依レハ普國內ニ在留スル外國人ニシテ營利ノ目的ノ爲ニスルニアラサレハ一年間ハ階級税(人民ヲ數多ノ階級ニ分テ之ニ課スル人頭税ヲ云フ)及ヒ所得税ヲ課スルコトナシ

然レトモ在留久シキニ亘ルトキハ其外國ヨリ得ル所ノ所得ニ對シテモ亦租税ノ義務ヲ負フモノトス故ニ其本國ニ於テ既ニ所得税ヲ負擔セルトキハ二重ニ租税ヲ負擔スルモノト謂ハサルヘカラス爲メニ場合ニ因リテ此ノ如キ移住ヲ全ク防碍スルコトアリ而シテ此妨碍ハ居住國ニ利益ヲ來スヨリハ寧ロ本國ニ利益ヲ生スルニ至ル故ニ或ハ一國ノ政略トシテ故ラニ課税セサルヲ以テ得策トスル場合ナキニアラサルナリ

第五 本國民ニシテ內國ニ居住シ外國ヨリ收入ヲ獲得セル者ハ其外國ニ於テ

課税セラレタル收入ヲ引去リ殘收入ニ對シテノミ課税セラレンコトヲ希望スルハ勿論ノコト、ス普國ノ法律第十七條ニ曰ク「普國民ニシハ外國ニ於テ所有スル土地ヨリ收ムル所ノ收入ニ對シテハ其外國ニ於テ其所有地ノ爲メニ納税セルコトヲ證明スルトキハ本國ニ於テハ其額ヲ除外シテ所得税ヲ免スヘシト此事ニ關シ「ワグネル氏ハ其著「財政學」ニ於テ論シテ曰ク「此制度ハ行過キタル制度ト謂ハサルヘカラス若シ外國ノ租税ニシテ內國ノ租税ヨリ輕キ場合ニ於テハ利益ヲ旨トスル者ハ外國ニ其收入ノ本源ヲ有スルヲ以テ利トシ內國ノ資本ヲ轉シテ外國ニ放下スルニ至ルヘシ」ト千八百六十四年ニ發布シタル伊太利ノ國際租税ニ關スル法律ニ依レハ內國ニ於テ支拂フヘキ所ノモノヨリ外國ニ於テ支拂ヒタル所ノモノヲ引去ルコト、爲セリ故ニ「ワグネル氏ノ憂フル所ハ伊太利法律ニ於テハ之ヲ防遏スルコトヲ得ヘキナリ

第六 現時露國ニ於テ實行スル所ノ法律ニ依レハ外國ニ居住スル露國株式會社ニ對シテ先取權ヲ有スル債權者ハ若シ其會社カ全タ利益配當ヲ爲サ、ルトキハ其先取權ノ部分ニ對シテ課税セラル、モノトセリ（此部分モ亦之アラサル

トキハ全タ課税セラルハ勿論ナリ）然ルニ外國ノ資本家ニシテ露國ニ其資本ヲ投入スル者頗ル多シト云ヘリ

單純ニ考フルトキハ人的税及ヒ所得税ノ如キ人ヲ目的トセシ租税ハ其人ノ居住スル所ノ國ニ納メ收益權ノ如キ物件ヲ目的トスル租税ハ其目的物ノ存在スル所ノ國ニ納メ又消費税ノ如キハ其消費ヲ爲シタル所ノ國ニ納ムルヲ以テ至當ト爲スカ如シ面シテ此等ノ基本トシテ其他ノ種々ノ租税ヲ混同スルヲ必要トス加之各國各特種ノ税制ヲ有シ又特種ノ利益ヲ有セリ是ヲ以テ國際條約又ハ合意ニ依リ相互ニ其利益ヲ交換スルコトアリ例ヘハ本國ニ於テハ資本ニ缺乏ヲ告クルヲ以テ外國資本ノ移入ヲ希望セル國ニ於テハ免稅ヲ保證セテ外國資本ノ移入ヲ促シ其資本ノ出所タル國ノ政府ヲシテ其收益ノ全額ニ對シテ所得税ヲ得セシムルカ如シ

北獨逸聯邦間ニ於テハ互ニ外國視セス總テノ事物ニ付キ利益交換ノ規約能ク調ヒ通常保護税ハ其居住地ニ於テ課セラレ地主及ヒ營業者ハ其土地又ハ營業所ノ所在地ニ於テ課税セラレ俸給又ハ年俸ヲ受クル者ハ之ヲ受クル地ニ於テ

課税セラル、モノトス

英國ニ於テ「ビル」内閣カ所得税ヲ實施シタル時ニ當リ外國ニ出ツル所ノ國債ノ利子ニハ該税ヲ課スヘキヤ否ヤノ問題起リテ議論紛々タリシカ結局此等ノ利子ヲ受取ル者ハ臣民トシテ納税ノ義務アル者ニアラス唯國家ニ對シテ債權者タル地位ニ立ツモノナリ國家ノ債權者カ其國家ニ納税ノ義務ヲ負フノ理ナシトノ說ニ歸シタリシカ或ハ其利益ノ點ヨリ說ヲ立テ英國ノ公債ヲ買フ者ハ英國ニ其資本ヲ放下スルモノナリ多クノ國ニ於テハ其國內ニ外國ノ資本ヲ移入スルコトヲ促サンカ爲メニ公然其免税タルヘキコトヲ明告セルモノアルヲ以テ之ニ所得税ヲ課セサルヲ得策トスト論シタル者モアリタリ

第二十一節 免税

主要ナル免税ハ一個人又ハ一階級ノ人民カ國家ノ爲ニ爲シタル功績ニ對シ其報償トシテ租税ヲ免除セシニ起原スルモノナリ故ニ若シ其免除セラレタル租税ト其者カ國家ノ爲ニ盡シタル功勞ト相當スルトキハ輿論ハ敢テ之ヲ非難スルコトナカルヘシ然レトモ爾後何等ノ理由ナク濫ニ租税免除ノ特權ヲ附

與スルニ至リテハ遂ニ種々ノ弊害ヲ生スヘシ例ヘハ僧侶貴族等ハ國家ニ功績アルト否トヲ問ハス總テ租税ヲ免除スルカ如シ獨逸ニ於テ封建時代ニ當リ士族ノ權勢盛ナルヤ「フレデリック」第二世ハ令ヲ發シテ曰ク「士族ハ租税ヲ免除ヲ受クヘキ十分ノ理由アリ渠ハ既ニ身命ヲ國家ニ致セリ何ゾ更ニ金錢ヲ出サシムヘゲンヤ」ト當時ノ思想以テ推知スヘキナリ然レトモ當時士族カ免税ノ特權ヲ有シタルハ敢テ羨ムニ足ラス如何トナレハ其士族ノ品格ヲ保ツニハ少カラサル費用ヲ要シ唯租税ノ負擔ヲ免除セラル、ノミニテハ以テ之ヲ價フニ足ラサレハナリ此ノ如ク租税免除ノ特權ハ一時盛ニ行ハレタリシモ第十六世紀ノ末ニ至リ兵制ノ變革スルニ隨ヒ士族免税ノ特權ハ其理由ヲ失ヒ同時ニ一方ニ於テハ權利ノ思想發達シテ此理由ナキ特權ヲ廢絶スルコトヲ促シ且租税ノ需要ハ國家ノ費用ノ増加スルニ隨ヒ日益増加シ彼此相俟テ租税免除ノ特權ヲ廢シ今日ニ至テハ各開明國ニ於テ租税ノ免除ハ善良ナル租税制度ニ對スル最大ノ妨礙物ト思考セラレ全ク其跡ヲ絶テリ又租税免除ノ制度アルトキハ租税協賛ノ責務ハ唯國用ノ存在スル事實ト其額トヲ承諾スルニ過キササルニ

至ル故ニ今日何レノ國ニ於テモ此制ヲ廢セリ然レトモ此ニ一問題タルハ租税免除ノ制カ果シテ善良ナル租税制度ノ最大妨礙物タル以上ハ之ヲ擴充シテ國家ニ屬スル特別財産即チ土地資本作業ノ如キニ對シテモ亦租税ヲ負擔セシムルヲ正當トスルヤ否ヤト云フ是ナリ此問題ニ付テハ學者ノ說必スシモ一致セスト雖モ之ニ課税スルノ可否如何ト問ハ、予輩ハ事ロ之ニ課税スヘシトノ說ヲ採ランノミ其理由ハ(第一)法理上此等ノ財産ニモ亦課税セサルヘカラス即チ彼ノ町村稅府縣稅ヲ國稅ノ附加トシテ徵收スル場合ノ如シ(第二)又之ヲ便宜上ヨリ見ルモ宜シク之ニ課税スヘシ蓋シ國家ノ特權ニアラサル國家ノ作業ニハ租税ヲ賦課シ以テ一私人ノ作業トノ競争ニ於テ双方ヲシテ平等均一ノ地位ニ立タシムヘケレハナリ(第三)又更ニ之ヲ計算上ヨリ論スルトキハ國家ノ營ム所ノ作業ノ經濟的純收入ヲ真正ニ計算セント欲セハ其作業ヲ人民ニ於テ營ムトキハ當ニ支拂フヘキ租税ヲモ亦總收入ノ中ヨリ除去スルニアラサレハ得テ知ルヘカラサルヲ以テ若シ國家カ其作業ニ付キ租税ヲ支拂ハサレハ其純收入ハ到底之ヲ知ルヘカラサルナリ例ヘハ或大道ハ國家ノ山林經濟ノ爲メニ

律關係ヲ規定スル法則ナリト謂フコトヲ得ヘシ

近世ノ立法例ニ依レハ手形法ニ於テハ前項ニ述ヘタル特別ノ規定ヲ設ケ一般債務法ノ範圍ニ屬スル原則ヲ揭ケスシテ純然タル手形上ノ關係ト手形關係ニ非サルモノトヲ區別スルコト一般ノ傾向ナリ蓋シ純然タル手形關係ト非手形關係トヲ混淆シタル立法例ハ舊主義ヲ採用シタル手形法系ニ屬シ近世ノ手形立法例ノ採ラサル所ナリ例ヘハ佛國商法ノ如キハ後ニ陳フル如ク所謂舊主義ニ屬スルモノニシテ二者ヲ混淆シタル所アルモ獨逸手形法及ヒ獨逸手形法ノ主義ヲ採用シタル瑞國手形法ノ如キハ特ニ手形上ノ債務ニノミ適用スヘキ事項ヲ規定シ手形ニ因ラサルモノハ總テ之ヲ除キタリ

手形法則トハ以上縷述スル如ク特別ノ規定ナリト雖モ手形上ノ關係ハ常ニ此特別規定ノミヲ以テ支配スルモノト誤信スヘカラス手形法則中ニ規定セサルモノト雖モ一般ノ原則トシテハ之ニ適用スヘキモノアリ例ヘハ代理ノ規定又ハ債權讓渡更改混同ノ規定等ノ如キハ即チ是ナリ

手形法則ヲ講スルニ先チテ尙ホ左ノ二點ニ付キ單簡ナル説明ヲ爲サントス

第一嚴格ナル手形ノ方式及ヒ手形行爲ニ因リテ生スル關係ヲ支配スル特別規定即チ手形法ノ沿革ノ要領

第二手形ノ法理即チ手形ノ債務關係ノ性質ハ如何例ヘハ契約ニ因ルモノナルカ將タ單獨行爲ナルカノ學說ノ概略

第一 手形法ノ沿革

甲 手形ノ起源 手形ハ何時ニ何地ニ於テ何人カ發明シタルモノナルヤノ問題ニ付テハ種々ノ說アレトモ直接ニ手形ノ法理ニ關係セサルカ故ニ簡略ニ之ヲ説明スヘシ此點ニ係ル說ヲ區別シ三說トス佛國人ノ說ニ依レハ手形ノ起源ハ猶太人ノ思想ニ因ルモノトセリ蓋シ猶太人ハ歐洲ニ於テハ一般ニ疾視セラシテ人民ニシテ其現住國ヨリ追放セラレタル例ニ乏カラス其時ニ際シ自己ノ財産ヲ攜帶シテ他國ニ移住スルコト困難ナルカ爲メ手形ヲ使用シ之ヲ以テ財産ノ移轉ヲ爲シタルコト即チ手形ノ起源ナリト又伊太利人ノ說ニハ宗教上ノ軋轢ニ關シ手形ノ効用ヲ發見スルニ至リタルモノナリトセリ其說ニ曰ク中古伊太利國ニ於テ獨逸帝派ト法王派トノ間ニ劇烈ナル軋轢ヲ生シ互ニ殘忍ナル

排擠ヲ爲スニ當リ帝王派ノ徒カ「プロレンス」ヨリ追放セララル、ニ際シ其財産ヲ處分シ之ヲ他國ニ攜帶スル方法トシテ手形ヲ使用シタルコトアリ是レ手形ノ起源ナリトスト然レトモ右二說ニ付テハ俱ニ確乎タル證據ナシ中古伊太利ノ商人カ商業用ニ關シ手形ヲ使用シ始メタリトノ說ハ最モ信用スルニ足ルモノトス蓋シ手形ハ主トシテ商業上ニ使用スルモノナルヲ以テナリ

乙 手形ノ發達 手形發達ノ沿革ヲ説明スルニハ便宜上其經過ヲ三時期ニ分チ第一期ヲ手形ノ發明アリシヨリ以來十七世紀ノ前半紀ニ至ルマデトシ第二期ヲ十七世紀ノ後半紀以後十九世紀ノ前半紀マデトシ第三期ヲ爾後現今ニ至ルマデトシテ其概略ヲ陳ヘントス

第一期ニ於テハ手形ハ主トシテ金銀ノ兩替ノ爲メニ使用セラレタルヲ以テ之ヲ取扱ヒタル者ハ兩替商人ニシテ他ノ商人ハ殆ト之ニ與ラサリシモノ、如シ此期間ニ於テハ手形ハ伊國商人ノ全權ニ屬シ當時ノ伊國手形法ノ主義カ行ハレタリ第二期ニ於テハ手形ノ用途愈々發達シ唯兩替用ノミナラス金錢支拂ノ用ニ供セラルルニ至レリ故ニ手形ハ一般商人ニ於テ之ヲ使用シ此期ニ於ル手

形法ハ佛國商法ト其主義ヲ同クスルモ分行ハレタリ第三期ニ至テハ手形ノ効用ハ尙ホ一步ヲ進メ所謂信用證券ト爲リ營商人間ノミナラス一般ニ使用セラハニ至レリ

先テ第一期ニ於ケル手形ハ何故ニ兩替商人ノ爲メニ使用セラレタルヤヲ論セシニ蓋シ兩替トハ金銭ト金銭トヲ交換シテ需用者ノ便益ヲ與フルモノナレハ同一ノ場所ニ於テハ現ニ金銭ヲ授受シテ之ヲ實行スヘシト雖モ遠隔地間ニ於テ兩替ヲ爲ス場合ニハ甲地ノ兩替屋ハ乙地ニ在ル其支店若クハ同種ノ營業者ヲシテ之ヲ實行セシムルコトヲ要シ之レカ爲メニハ其支店又ハ同營業者ニ宛テタル書面ヲ兩替金ノ需用者ニ交付シ其者ヲシテ此書面ニ依リ乙地ニ到リテ目的ノ金銭ヲ受取ルコトヲ得セシメサルヘカラス故ニ此書面ニ於テハ金銭支拂ノ委託ヲ含有スルノミナラス現金兩替ノ如ク甲地ニ於テ兩替商ノ受取ル金銭ハ之ヲ代價ト看做シ乙地ニ於テ依頼人ニ交付スヘキ金銭ハ恰モ商品ノ如ク看做サレタリ而シテ通貨ノ價ハ甲乙地間ニ於テハ常ニ變動アルカ故ニ兩替手形ノ相場モ時ニ高低ノ差アリシコト勿論ナリ且甲地ヨリ發シタル兩替手形ヲ

ハ多クハ債權者ナレトモ獨リ債權者ニ限ラス破産ニ關係ヲ有スルモノハ總テ之ヲ爲シ得ヘキナリ抑モ債權者ハ異議ノ申立ニ由リ破産者ヲシテ其義務ヲ盡サシムルコト往々之レアルヘキニ因リ異議ノ申立ニ利益アルハ論ヲ俟タスト雖モ復權ヲ得ルト否トハ毫モ利害ノ關スル處ニアラス隨テ復權ニ關スル決定ニ對シテ抗告ヲ爲シ得サルナリ蓋シ異議ハ其意見ヲ與ヘ又ハ裁判所ヲシテ事實ヲ詳悉セシムルノ目的ニ因リ之ヲ爲サシムルモノナルモ債權者ハ復權ノ請求ヲ許スヤ否ヤニ付キ金銭上何等ノ利益ヲ有セス又復權ハ債權者ノ權利ヲ害セサルナリ加之復權ハ公法上ノ規定ニ關シ其當事者ト爲ルヘキモノハ破産者ト公益ヲ代表スヘキ檢事ナリ異議申立人ハ犯罪ノ場合ニ犯罪ヲ告訴スルト同然ナリ故ニ我法律ニ於テハ復權ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲スヘキ者ノ明文ナシト雖モ予ハ右ノ如ク論定スル者ナリ佛國白耳義等ノ破産法ニ於テハ異議申立人ハ訴訟手續ニ參加スルヲ得ストアリテ抗告ヲ爲シ得サルコト明ナリ

第十二章 支拂猶豫

債務者ニシテ一旦破産處分ヲ受クレハ之カ爲ニ不幸ニ陷ルハ勿論復ヒ前ノ位

置ニ復スルコト實ニ困難ナリトス而シテ此ノ如キ嚴格ナル手續ヲ用非過酷ノ結果ヲ生セシムルハ畢竟商業上ノ信用ノ安全ヲ維持センカ爲ニ外ナラスト雖モ他ノ一方ヨリ論スレハ天災地變ノ如キ一時ノ災難ニ由リ一時義務ノ履行ヲ怠リタル者即チ自己ノ過失ナクシテ一時支拂ヲ停止スルニ至リタル場合ニ直ニ之ヲ破産者ト爲シ同一ニ嚴格ナル制裁ヲ受ケシムルハ本人ヲシテ再ヒ身代ヲ回復スルノ途ヲ失ハシメ爲ニ債權者ノ不利益ヲ蒙ラシムルコトアルヘシ故ニ若シ然ルヘキ方法アルトキハ宜シク之ニ隨ハレムルヲ要ス是レ支拂猶豫ノ規定アル所以ナリ然レトモ此規定ニ付テハ各國相同シカラサル所アリ白耳義ノ如キハ之ヲ許シ英國ハ和解中ノ一部トシテ之ヲ許セリ之ニ反シテ佛國獨逸ノ如キハ之ヲ許サス今之ヲ許サ、ルヲ可トスル學說ヲ見ルニ要スルニ支拂猶豫ハ債權者カ自己ノ債務ニ充ツヘキ收入ヲ遲延セシメ爲ニ債權者ニ不利益ヲ被ラシムルコト多ク又之カ爲メニ正直ナル債務者ヲ利スルコト稀ニシテ反テ不正ナル債務者ヲシテ詐欺ヲ施サシムルノ媒介ト爲ルノ恐レアルノミナラス支拂猶豫ハ債權者ノ多數決ニ依リテ之ヲ決スルモノナルカ故ニ小數債權者ハ之

カ爲ニ權利ヲ害セラレタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ法律ハ多數者ト小數者トノ間ニ之ヲ保護スルニ輕重アルヘキニアラサルヲ以テ支拂猶豫ノ如キハ之ヲ設ケサルヲ以テ公平ヲ得タルモノナリト云フニアルカ如シ然レトモ是等ノ理由ハ皆採用スルモノナシ抑モ支拂猶豫ノ爲メ債務者カ辨濟ヲ遲延スルヨリモ寧ロ破産處分ノ爲メ遲延スルモノ多ク債權者ヲ害スルコト破産處分ヨリ少ナカルヘシ而シテ支拂猶豫ノ爲メ債務者ニ利益ナル點ハ獨リ其財產處分ノ權ヲ失フコトナク又破産ヨリ生スル身上ノ結果ヲ逃カルノミニシテ債權者カ財產ヲ處分スルノ方法ニ付テハ主任官ノ嚴格ナル監督ヲ受ケサルヘカラスアルカ故ニ債務者ニ於テ詐欺其他不正ノ手段ヲ施サントスルノ餘地アルコトナシ又破産處分ハ元來一個人ノ權利ヲ保護セントスルモノニアラサレハ如何ナル債權者ト雖モ多少其權利ヲ壓セラル、ハ亦已ムヲ得サル所ナリ現ニ協賛契約ノ場合ニ少數者カ多數者ノ爲ニ壓セラル、モ此理由ニ基テ去レハ支拂猶豫ニ因リ少數債權者ヲ害スルコトアルモ是レ已ムヲ得サルコトニシテ之カ爲メニ支拂猶豫ハ之ヲ設クルノ必要ナシト云フヲ得サルカ如シ白耳義國ニ於テハ

往古ヨリ支拂猶豫ノ規定アリシモ往古ノ法律ハ債權者ノ利害ヲ顧ミス容易ニ之ヲ與ヘタルヲ以テ非常ナル弊害ヲ來シタリシカ漸次改良ヲ加ヘ今日ノ法律ヲ見ルニ至レリ而シテ我支拂猶豫ノ規定ハ之ニ基ツキテ制定シタルモノナリ

第一節 支拂猶豫ノ性質

支拂猶豫ノ何物ナルヤハ第千五十九條ニ規定セリ曰ク

商ヲ爲スニ當リ自己ノ過失ナクシテ一時其支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル者ハ商業上ノ債權者ノ過半数ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右債權者ニ對スル義務ニ付キ一年以内ノ支拂猶豫ヲ受クルコトヲ得但シ新商法施行法第百四十五條ニ由リ商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半数以上ノ承諾ヲ得タルトキハ云々ト爲レリトアリ故ニ此條ニ依レハ支拂猶豫ヲ受ケントセハ左ノ條件ヲ要ス

一 支拂猶豫ヲ受クルニハ破産處分ニ着手セサル前ナルヲ要ス 此條件ハ第千五十九條ニ於テハ明ニ之ヲ知ル能ハサルモ破産ノ宣告アリテ破産處

分ニ着手シタル後ハ協諾契約ノ規定アリテ之ニ依ルノ外他ニ途ナキヲ以テ支拂猶豫ハ其以前ニ於テ之ヲ爲スヘキコト明ナリトス

二 商ヲ爲スニアリタルコト 民事取引ニ於テハ當事者相對ノ契約ヲ以テ辨濟ノ延期ヲ爲スコト得ヘキヲ以テ十分ナリト看做スカ故ニ單ニ商取引ニノミ適用スヘキモノトナシタルナリ(新商法ニテハ商行爲トアリ)

三 自己ノ過失ナキコト 抑モ支拂猶豫ハ債權者ノ承諾セサル支拂ノ延期ヲ之ニ命スルモノニシテ合意契約ノ元則ニ反スルヲ以テ法律ハ全ク例外ノ場合ニ於テハ債權者ニ害アルヨリ寧ロ利アルモノト看做シ支拂猶豫ヲ與フルナリ故ニ自己ノ盲信怠慢又ハ粗慮等ノ原因ニ因リテ生シタル支拂停止アリタル場合ニハ支拂猶豫ヲ申立ツル根基トナスヲ得ス必ス過失ナキコトヲ要ス

四 商業上ノ債權者ノ過半数ノ同意ヲ要ス 民事上ノ債權者ニハ民事訴訟法ニ隨ヒ強制執行ヲ受クルコトヲ免カレサルナリ故ニ民事上ノ債權者ニ對シテハ相對ノ示談ヲ以テ猶豫ヲ受クルノ外途ナキナリ過半数ハ單ニ人

數ノミナルカ如クナルモ此場合ハ人員及ヒ債權ノ過半數ヲ要スルハ第六十一條第三十二條ニ依リ明ナリ然レトモ單ニ商業上ノ債權ノミノ承諾ヲ要シ民事上ノ債權者ノ承諾ヲ願ミサルハ如何ナル理由ニ基クモノナルヤヲ知ルコトヲ得サルナリ

以上ノ條件ヲ具備スルニ於テハ債務者ハ裁判所ニ對シ支拂猶豫ノ申請ヲ爲スヲ得ヘク而シテ裁判所ハ其申請ハ法律ノ條件ヲ備ヘタルヤ否ヤ辨濟ノ方法期限等ニ適合スルヤ否ヤヲ見以テ之ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決ス然レトモ支拂猶豫ノ期限ハ一ケ年以上ニ涉ルコトヲ許サス是レ其長キニ失スルトキハ一ニハ不承諾ノ債權者ノ權利ヲ害スルコト甚シキニ至ルト同時ニ又回復ノ目算立ツヘカラサレハナリ但シ一ケ年以内ニテ期限ヲ定ムルハ債務者ノ望ム處ニ隨ヒ債權者ノ會議ニ付スヘキモノナリ

右述ヘタル所ニ依レハ支拂猶豫ト協議契約トハ左ノ點ニ於テ異ナル處アリ

一 協議契約ハ破産宣告後ニ生スルモノナレトモ支拂猶豫ハ宣告前ニ求ム

ヘキモノナリ

二 協議契約ハ商人ト非商人トヲ問ハス總テノ債權者ニ對シテ有効ナレトモ支拂猶豫ハ獨リ商人ニ對シテノミ有効ナリ

三 協議契約ニハ期限ナキモ支拂猶豫ハ一ケ年ヲ超ユルヲ得ス

第二節 支拂猶豫ノ手續

支拂猶豫申立ノ手續ハ第六十條ニ規定セリ曰ク

支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス

第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二 貸借對照表財産目錄及ヒ住所ト債權額トヲ明示シタル債權者名簿

第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノ、完全ナル辨濟ヲ爲シ得ル方法期間及ヒ此カ爲メ供スルコトヲ得ルコトノ擔保ノ證明

右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展覽ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク

支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許スコトヲ得

本條第一號乃至第三號ノ條件ヲ要スルハ左ノ事柄ヲ調査スルノ必要アレハナリ

一 支拂猶豫ヲ爲シタルハ債務者自己ノ過失ニ原因スルヤ否ヤ

二 猶豫ヲ與フルニ於テハ果シテ辨濟ヲ爲シ得ルノ見込アルヤ否ヤ

三 辨濟スヘキ方法期限ハ正當ナルヤ否ヤ

裁判所ハ申立書其他ノ附屬書類ニ依リ以上ノ事實ヲ認ムルトキハ假リニ支拂猶豫ノ許可ヲ與フルコト得ルナリ

支拂猶豫決定ノ手續ハ第六十一條ニ規定シ裁判所ハ第六十二條ニ從ヒ之ヲ決定シ其猶豫期限内ハ常ニ之ヲ監督ス

第三節 支拂猶豫ノ効力

支拂猶豫ノ効力ハ第六十三條ニ規定アル如ク

第一 強制執行及ヒ破産宣告ヲ受ケサルコト

第二 猶豫契約ノ實行義務ノ履行ニ付テハ主任判事ノ監督ヲ受クヘキコト是ナリ然シテ猶豫ヲ與フルニ不服ナル債權者ト雖モ一旦裁判官之ヲ與フルトキハ之ニ拘束セラルモモノナリ然レトモ債務者ノ保證人共同義務者ノ義務ハ

ヘカラス故ニ汝ハ商人ニアラサルカ故ニ該法廷ニテ訴ヲ起スヘカラストハ該法廷ニ於ケル被告ノ良キ抗辯タリシナリ其第二期ハ即チ「コーク」氏ノ時代ヨリ千七百五十六年「ロッド・マンス・フィールド」氏カ高等判事ノ職ニ上リタルマテノ間ナリトス此間ニ於テ商人等ノ特別裁判所ハ消滅シテ商人法ハ國王ノ普通法裁判所ニ於テ執行スルコト、ナレリ然レトモ此期ニ於テハ商人法ハ未タ商人間ノ慣習タルニ過キスシテ隨テ商人ノミニ之ヲ適用シ未タ普通人ニモ一般ニ適用シ得ル普通法トナラザリシナリ其普通法トナリシハ實ニ第三期ニアリトス第三期ハ「マンス・フィールド」氏カ千七百五十六年高等判官ノ職ニ就キテヨリ現今ニ至ルマテノ間ナリトス此時期ハ海商法ノ點ヨリ觀察スレハ又之ヲ二ツニ分ツコトヲ得前期ハ即チ普通法時代ト名クヘクシテ千八百五十四年成文ノ商船法ノ制定アルニ至ルマテノ間ナリトス後期ハ即チ成法時代ニシテ商船法ノ實施以來現今ニ至ルマテノ間ナリトス

「マンス・フィールド」氏在職三十年從來ノ商人ノ慣習ニ一定ノ形式ヲ與ヘテ之ヲ普通法ノ一部トナシ又大ニ外國法ヲ採用シタリ殊ニ海商ノ部ニ於テ然リトス

氏ハ固ト蘇格蘭ニテ教育ヲ受ケ英國固有ノ普通法ニハ能ク通セザリシカ故ニ外國法ヲ引證スルハ自然ナリトス例ヘハ「リユーク」對「ライド」ノ事件ヲ判決スル場合ノ如キ氏ハ「ロード」海法、羅馬法、コンスラート「ウイスビー」「オレロン」「ロツカス」ノ條約、路易十四世ノ海事勅令「パチン」フ同註釋等ヲ引用シテ以テ其判決ノ基礎トセリ隨テ此等ノ外國海法カ何レモ皆現行ノ商船法ニ影響ヲ與ヘ居ルヤ知ルヘキナリ而シテ商事規定ノ多クハ皆氏ノ時ニ形成セラレタルモノニシテ氏ノ手ニ成リタル海商判例甚ナカラス氏ハ實ニ英國商法ノ創立者トモ云フヘキナリ氏ニ次キテ海商法上非常ナル効蹟アルモノハ「ロード、ストウエル」氏ナリトス「ストウエル」氏ハ千七百九十八年以來「ウエストミニスター」ノ海上裁判所長トナリ許多ノ有名ナル海商判例ヲ與ヘタリ氏ニ次キテハ判事「アボット」氏ノ如キ有名ナル商船法ノ著アリ以テ大ニ海商法上影響ヲ與ヘタリ此他判事「ローレ」氏判事「ワイルス」氏等皆有名ナリトス要スルニ此等ノ有名ナル判事ノ力ニ依リ英國ノ海商法ハ普通法ノ一部トシテ十分ナル發達ヲ爲シ遂ニ成文法トシテ發布セラル、機運ニ向ヒタルナリ

千八百五十四年八月十日ニ至リ始メテ從來ノ海事規定ヲ編纂シテ成文ノ商船法ヲ發布シタリ其中ニハ從來判決例ニ依リテ定マリタル主意ヲ採用シタルノミナラス「エリザベス」朝以來同年ニ至ルマテニ發布サレタル殆ント四十八個以上ノ單行法律ヲ編纂シタリ而シテ該商船法ハ附表ヲ除キテ五百四十八個條ノ多キヲ占メタリト雖モ實施後四個月ナラスシテ之カ補正ノ法律ヲ發シ千八百五十五年ヨリ千八百九十二年ニ至ル三十八年間ニ竟ニ二十三個ノ法律ヲ發シ之カ修正若クハ補充ヲ行ヒタリ而シテ此等ノ諸法律ヲ集録大成シテ千八百九十四年八月二十五日ニ至リテ現行商船法ヲ發布セリ「ビクトリア」女王第五七年及ヒ第五八年法律第六十號而シテ該法律ハ十四章七百四十八個條及ヒ附表二十二トヨリ成レリ今其規定ノ項目ヲ列舉セン第一章船舶登記英國船舶所有者ノ資格英國船舶登記ノ義務登記ノ手續船舶登記證書船舶ノ讓渡及ヒ移轉船舶ノ質入質入及ヒ賣買證書船舶ノ名稱變更登記更新登記登記ノ讓渡無能力者信託及ヒ衡平法上ノ權利信託所有者ノ義務船舶管理人登記ノ申請閱覽手数料登記ノ謄本證明及ヒ其方式詐偽及ヒ誤謬アル登記申請船舶籍及ヒ國旗船舶ノ沒

收船舶噸數ノ測度外國ニ於ケル登記港殖民地ニ於ケル登記本章適用ノ範圍

第二章船長及海員適任證書海役ノ徒弟海員雇入認可書海員雇入契約印度水夫ノ雇入契約海員ノ階級海員ノ雇止給料ノ支拂就役後ノ支拂分割支拂海員ノ送金手形及貯蓄銀行給料ニ關スル海員ノ權利給料請求簡易訴訟契約解除ノ裁判所ノ權限死亡セタル海員ノ財產海員親族ノ救護孤獨ノ海員海員ノ遺棄貧窮ナル海員海軍ヘノ海員臨時雇入海員ノ食料健康及ヒ保養海員訴願ノ便宜債務辨濟ニ關スル海員ノ保護繼續航海日誌地方管海官廳海商局海員ノ登記及ヒ登記ノ贈本水夫ノ住所第二章適用ノ範圍

第三章旅客運送船及ヒ外航船第一節定義旅客旅客船外航船等ノ定義第二節旅客船旅客船ノ検査一般ノ機裝紀律第三節外航船外航船ノ検査機裝旅客ノ定員及ヒ保養食物飲用水藥室危險貨物家畜ノ運送醫師海員水夫診察船長ノ保證金證書旅客名簿發航認可證書旅客運送契約旅客ノ取締到達後旅客ノ休養旅客ノ抑留及ヒ強制上陸海難ニ於ケル處分英國ヘノ歸航出生及ヒ死亡ノ登記訴權ノ保存旅客運送仲立人同紹介人其詐偽救濟手續補則第三章適用ノ範圍

法學士 岡村三郎講述 民事訴訟法(第三編以下)	五〇二頁	七拾五錢	六拾錢	八錢
法學士 玉木爲三郎講述 保險	三三八頁	貳拾七錢	貳拾壹錢	六錢
法學士 鈴木宗吉講述 破產	一七〇頁	拾叁錢	拾錢	四錢
法學士 玉木爲三郎講述 海商	一八四頁	拾四錢	拾貳錢	四錢
法學士 高野岩三郎講述 經濟學	三三〇頁	四拾八錢	叁拾八錢	六錢
法學士 高野岩三郎講述 財政學	一八二頁	貳拾七錢	貳拾貳錢	四錢
法學士 中山廣太郎講述 民法物權(第七章以下)	一七五頁	貳拾六錢	貳拾壹錢	四錢
法學士 岡村三郎講述 民法債權(第二章以下)	四二二頁	六拾叁錢	五拾錢	六錢
法學士 仁井田義太郎講述 民法債權(第二章以下)	二〇八頁	叁拾錢	貳拾四錢	四錢
法學士 小倉三郎講述 民法物權(第七章以下)	二〇六頁	叁拾錢	貳拾四錢	四錢

收船舶噸數ノ測定外國ニ於ケル登記港殖民地ニ於ケル登記本章適用ノ範圍

第二章船長及海員適任證書海役ノ徒弟海員雇入認可書海員雇入契約印度水夫ノ雇入契約海員ノ積級海員ノ雇止給料ノ支拂就役後ノ支拂分割支拂海員ノ送金手形及ヒ貯蓄銀行給料ニ關スル海員ノ權利給料請求簡易訴訟契約解除ノ裁判所ノ權限死亡シタル海員ノ財產海員親族ノ救護孤獨ノ海員海員ノ遺棄貧窮ナル海員海軍ヘノ海員臨時雇入海員ノ食料健康及ヒ保養海員訴願ノ便宜債務辨濟ニ關スル海員ノ保護訓練航海日誌地方管海官廳海商局海員ノ登記及ヒ登記ノ謄本水夫ノ住所第二章適用ノ範圍

第三章旅客運送船及ヒ外航船第一節定議旅客旅客船外航船等ノ定議第二節旅客運送船ノ検査一般ノ機裝紀律第三節外航船外航船ノ検査機裝旅客ノ定員及ヒ保養食物飲用水藥室危險貨物家畜ノ運送醫局員水夫診察船長ノ保證金證書旅客名簿發航認可證書旅客運送契約旅客ノ取締到達後旅客ノ休養旅客ノ抑留及ヒ強制上陸海難ニ於ケル處分英國ヘノ歸航出生及ヒ死亡ノ登記訴權ノ保存旅客運送仲立人同紹介人其詐偽救濟手續補則第三章適用ノ範圍

法學博士 河村謙三郎講述	民事訴訟法(第三編以下)	五〇二頁	七拾五錢	六拾錢	八錢
法學士 玉木爲三郎講述	保險	三三八頁	貳拾七錢	貳拾壹錢	六錢
法學士 鈴木宗吉講述	破産	一七〇頁	拾叁錢	拾錢	四錢
法學士 玉木爲三郎講述	海商	一八四頁	拾四錢	拾貳錢	四錢
法學士 高野岩三郎講述	經濟	三三〇頁	四拾八錢	叁拾八錢	六錢
法學士 高野岩三郎講述	財政	一八二頁	貳拾七錢	貳拾貳錢	四錢
法學士 中山成太郎講述	民法物權(第七章以下)	一七五頁	貳拾六錢	貳拾壹錢	四錢
法學士 仁井田益太郎講述	民法債權(第二章以下)	四二二頁	六拾叁錢	五拾錢	六錢
法學士 仁井田益太郎講述	民法債權(第二章以下)	二〇八頁	叁拾錢	貳拾四錢	四錢
法學士 小宮三保松講述	民法物權(第七章以下)	二〇六頁	叁拾錢	貳拾四錢	四錢

○ 注 意

○校外生ノ月謝ノ拂込ニハ必ス**第一部**

第二部**第三部**若クハ**全部**タルコト

ヲ指定スヘシ若シ之ヲ指定セサルトキハ講義録

ノ發送ヲ延滞スルコトアルヲ免レズ

○翌月分ノ月謝金ハ必ス**前月末**マテニ拂込

ムヘシ

校外生増加ノ爲メ缺本ヲ生スルノ虞アルヲ以

テニヶ月以上月謝滞納ノ者ニ對シテハ送本ス

ルコト能ハサルコトアルヘキヲ以テ月謝延滞

者ハ此際至急拂込ムヘシ

○爲替ハ必ス**飯田町**支局宛ニテ振込ムヘシ

明治三十二年六月九日印刷
明治三十二年六月十日發行

東京市牛込區丸來町三番地

編輯兼 上 野 政 雄

東京市芝區西ノ久保明角町十一番地

印刷者 金子 鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明角町十一番地

印刷所 金子 活版所

發行 所 司法省 和佛法律學校

指定

所在 (東京市麴町區富士見
町六丁目十六番地)

電話 (本局千二百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可